

ホンデュラス共和国 看護教育強化プロジェクト 終了時評価報告書

ホンデュラス共和国看護教育強化プロジェクト終了時評価報告書

平成 7 年 3 月
(1995年 3月)

JICA LIBRARY
J1128157(3)

国際協力事業団
医療協力部

国際
CA
113
129
16N
LIBRARY

医協二
J R
95-25

ホンデュラス共和国
看護教育強化プロジェクト
終了時評価報告書

平成7年3月
(1995年3月)

国際協力事業団
医療協力部



1128157(3)

1128157(3)

序 文

ホンデュラス共和国看護教育強化プロジェクトは、平成2年9月1日から5年間の協力期間を設定し、看護教員に対する技術移転により、看護補助員養成および看護婦養成の強化を通じて同国の公衆衛生の改善に寄与するため、看護補助員養成校3校および国立自治大学医学部看護学科3校において看護教育技術の移転を実施しているものです。

国際協力事業団は本プロジェクトの協力期間終了（平成7年8月31日）を前に、当初の協力目標、計画に照らし、プロジェクトの活動実績、管理運営状況、カウンターパートに対する技術移転状況について評価を行い、目標達成度を判定し、本プロジェクトに対する今後の協力方針についてホンデュラス側と協議するとともに、評価結果から教訓を導き出し、今後の技術協力のあり方が、実施方法の改善に資することを目的として、平成7年3月8日から3月20日まで評価調査団を派遣しました。

本報告書は、その調査結果を取りまとめたものです。ここに、本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる感謝の意を表しますとともに、プロジェクトの効果的な実施のために、今後とも関係各位にご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成7年3月

国際協力事業団

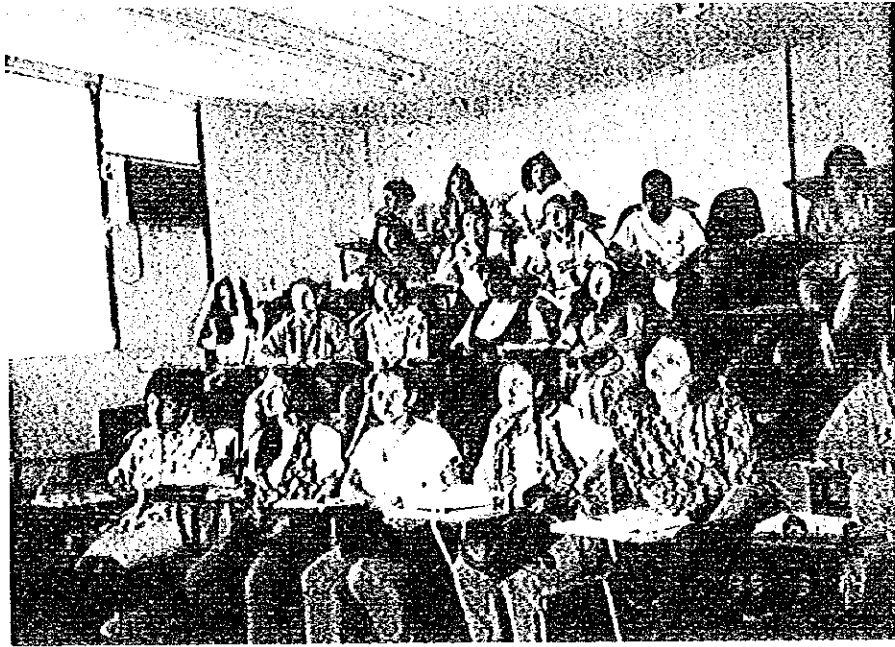
理事 小澤大二



▲ 合同評価報告書署名・交換



▲ 自治大学サンペドロスーラ校の看護学科にて



▲ 自治大学ラセイバ校看護学科授業風景



▲ サンペドロスーラ看護補助員養成校授業風景

目 次

序文	
写真	
第1章 評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	2
1-5 終了時評価の方法	3
第2章 要約	5
2-1 合同評価報告書	5
2-2 プロジェクト終了後の対応について	5
第3章 協力実施の経過	8
3-1 プロジェクト成立の経緯	8
3-2 プロジェクトの目的および目標	8
3-3 プロジェクトの暫定実施計画（T S I）	9
3-4 協力実施プロセス	10
第4章 目標達成度	12
4-1 上位計画との整合性	12
4-2 案件目標の達成状況	12
4-3 アンケート調査によるホンデュラス側評価	13
4-4 目標達成の理由	16
第5章 案件の効果	18
5-1 緊急に対処を要する領域における看護教育理論および方法の改善	18
5-2 看護教育カリキュラムの改善	18
5-3 地方および都市における社会奉仕の強化と改善	19
5-4 教員の看護教育技術の改善	20
5-5 教科書作成技術の向上	20

第6章 自立発展の見通し	21
第7章 フォローアップの必要性	22
第8章 評価結果総括	23
8-1 評価の総括	23
8-2 とるべき措置	24
8-3 教訓および提言	24
資料	
1 合同評価報告書（英文）（西文）	27
2 プロジェクトの具体的目標および達成度	67
3 インプット実績	71
4 アウトプット実績	100
5 プロジェクトの活動および成果（専門家作成）	106

第1章 評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ホンデュラスは、国民、とりわけ農村地域の住民に対する保健衛生サービスの充実、および乳幼児死亡率の低下を図ることを基本的保健政策として掲げている。しかしながら、農村地域では保健サービスの担い手である看護婦（多くの地域では地域保健所で勤務する看護婦が予防接種、栄養失調対策、母子保健などの幅広い公衆衛生活動を行っている）が絶対的に不足しており、また、その技術水準も低いことから、住民の保健ニーズに十分対応できないでいた。

このような背景から、1988年7月11日ホンデュラスはわが国に対し、保健省管轄の看護補助員養成校および国立自治大学医学部看護学科（正看護婦教育）を対象にしたプロジェクト方式技術協力を要請してきた。わが国はこれを受け、看護補助員養成校3校および国立自治大学医学部看護学科3校に対して1990年9月1日から5年間にわたり専門家派遣、研修員の受入れ、機材供与を行うこととし、1990年8月16日実施協議議事録（R/D）を署名・交換した。

双方で合意された技術協力の目的は、①緊急に対応が必要な分野における看護教育の理論および方法の改善、②看護教育カリキュラムの改善、③農村および都市周辺部における実践教育技術の改善と強化、④看護教育技術の改善、⑤看護教育用のテキストの開発および改善である。

その後、1993年3月に計画打合せ調査団を派遣し、技術協力計画の見直しを行った。さらに、1994年3月に巡回指導調査団を派遣し、プロジェクト前半部の成果の取りまとめ、ならびに本評価調査に向けて残りの協力期間の活動目標を、ホンデュラスと協議のうえ設定した。

プロジェクトは開始以来、長期専門家10名、短期専門家15名（1995年度に1名予定）、研修員14名（1995年度に4名予定）の受入れ、総計3億2200万円の機材供与、1776万6000円のプロジェクト基盤整備事業を実施している。

本プロジェクトは、1995年8月31日をもって終了の予定であるが、このたびプロジェクト協力期間の終了を前に、当初の協力目標、計画に照らし、協力分野の活動実績を比較検討し、わが国の協力とホンデュラス側のプロジェクト運営の効果を評価するため、評価調査団を派遣したものである。

1-2 調査団の構成

(担当)	(氏名)	(所属)
団長 総括	矢野 正子	東京大学健康科学・看護学科基礎看護学教室教授

団員 母子保健 井手 信 聖マリア学院短期大学副学長、看護学科教授
 団員 研修計画 名原 壽子 厚生省看護研修研究センター主任教官
 団長 協力計画 大野 裕枝 国際協力事業団医療協力部医療協力二課

1-3 調査日程

日順	月日	曜日	移動 および 業務
1	3月8日	水	移動 成田 (17:20) → ロサンゼルス (9:55) <JL062> ロサンゼルス (12:20) → マシコ市 (18:10) <AM060>
2	9日	木	移動 マシコ市 (13:30) → テグシガルバ (17:45) <TA211>
3	10日	金	JICA ホンデュラス事務所表敬 在ホンデュラス日本国大使館表敬 保健省表敬 経済企画省表敬 プロジェクト主催歓迎夕食会
4	11日	土	資料整理
5	12日	日	休日
6	13日	月	ワバドスラ看護補助員養成校視察 自治大学ワバドスラ校視察
7	14日	火	自治大学ワバドスラ校視察
8	15日	水	テグシガルバ看護補助員養成校視察 自治大学テグシガルバ校教員との会合 合同委員会
9	16日	木	合同委員会・合同評価報告書作成
10	17日	金	合同評価報告書署名 在ホンデュラス日本国大使館報告 団長主催レセプション
11	18日	土	移動 テグシガルバ (9:30) → マイシ (13:40) <TA954> マイシ (16:50) → ニュエボ (19:45) <AA1154>
12	19日	日	移動 ニュエボ (12:10) →
13	20日	月	移動 ← 成田 (16:15)

1-4 主要面談者

(1) ホンデュラス側

Dr. Enrique Zanayoa 厚生省大臣
 Dr. Luis Alonso López Benitez 厚生省副大臣
 Dr. Jorge Alberto Medina 厚生省人的資源局長

Lic. Zurema Aguilar	厚生省看護課長
Lic. Glenada Ruiz	厚生省計画局
Lic. Guadalupe Hung	経済企画省担当官
Lic. Gertalina Cerrato	看護協会会長
Lic. Liliana Mejia	プロジェクトコーディネーター
Lic. Juana Carolina Buchanan	自治大学テグシガルパ校看護学科長
Lic. Martha Julia de Blair	自治大学サンペドロスーラ校看護学科長
Lic. Iveth de Castañeda	自治大学ラセイバ校看護学科長
Lic. Mayra Chang	テグシガルパ看護補助員養成校校長
Lic. Alba Luz Collart	テグシガルパ看護補助員養成校学科長
Lic. Sonia Bueso de Serrano	サンペドロスーラ看護補助員養成校校長
Lic. Yolanda Argeñal	チョルテカ看護補助員養成校校長

(2) 日本側

浜野美智夫	在ホンデュラス日本国大使館特命全権大使
三浦 春吉	在ホンデュラス日本国大使館二等書記官
黒須 良玄	在ホンデュラス日本国大使館一等書記官兼医務官
長瀬 威	JICAホンデュラス事務所所長
小池 芳一	JICAホンデュラス事務所次長
Ing. Cesar Morales	JICAホンデュラス事務所職員
野沢 俊博	JICA専門家(開発計画)
江上由里子	JICA専門家(医療保健サービス開発計画)
菅原 能子	プロジェクトリーダー
九筈 逸郎	調整員
小川 正子	長期専門家(カリキュラム)
富島由紀子	長期専門家(母子看護)
村上友美子	長期専門家(外科看護)

1-5 終了時評価の方法

(1) 調査項目

- ① 当初計画と実際の協力実施プロセス
- ② 協力実績(日本側、ホンデュラス側)
- ③ ホンデュラス側の管理・運営状況
- ④ 技術移転状況

a. 目標達成度

- ・上位計画との整合性
- ・案件目的の達成状況
- ・各協力項目の達成状況

b. 案件の効果

- ・効果の内容
- ・効果の広がりと受益者の範囲

⑤ 今後の協力方針

⑥ 教訓および提言

(2) 調査方法

プロジェクトの当初計画に照らして、日本側・ホンデュラス側双方の活動実績、管理運営状況およびカウンターパートへの技術移転状況について評価を行い、目標達成度をホンデュラス側と共同で確認した。

その際用いた指標・資料は以下のとおりである。

- ① 討議議事録 (R/D)
- ② 暫定実施計画 (T S I)
- ③ 要請書 (A 1～A 4 サイズ)
- ④ 計画打合せ調査団および巡回指導調査団ミニッツ (M/M)

以上の資料に基づいて得られた評価結果、ならびに日本側専門家・ホンデュラス側関係者との協議結果を、共同の合同評価報告書として取りまとめ、双方で署名した。

第2章 要約

2-1 合同評価報告書

合同評価報告書の概要は以下のとおりである。

合同評価報告書の作成にあたり、合同評価会議が開催された。

会議の第1日目には、ホンデュラス側コーディネーターから、看護教育強化の技術協力の実績について概要が報告された。R/Dに基づくプロジェクト実施の5つの目標について、ホンデュラス側看護教員の参加やかかわりの状況についての詳細な報告がなされ、また、評価のための資料のひとつとして全看護教員を対象としたアンケート調査の結果についても報告がなされた。

引き続き、厚生省副大臣ロベス氏から、厚生省の重要な政策のひとつの柱として従来から人材養成の重要性が強調されてきており、プロジェクトは終了に近づいてはいるが、それは同時に新しいスタートの始まりであるとして、今後20～30年にわたる国家計画のマスタープランの存在が示唆された。また、プロジェクト終了後のメンテナンスが困難であるとの懸念についても説明がなされた。

引き続き、プロジェクトのホンデュラス側責任者である厚生省人的資源局長から、ミニッツに向けた合同評価委員会報告書案が提示され、討議のための材料とされた。この合同評価報告書案については、まず、ホンデュラス側、日本側でそれぞれの検討が行われ、必要に応じて相互討議が活発に行われた。

第2日目には、第1日目に討議した内容を含め総合的な協議・調整が行われ、報告書としてまとめることができた。

合同評価報告書の要点は以下のとおりである。

プロジェクトの目標はほぼ達成し、プロジェクト基盤整備事業によって建設されたセンターを中心に看護補助員養成校3校、国立自治大学医学部看護学科3校の看護教員に対して活発な活動が行われた。

ホンデュラスは、プロジェクトにより得た成果をもとに、今後も看護婦等人材の養成を維持・発展させるとともに、看護教員等の資質の向上について努力することを表明した。

日本側としては、プロジェクトは当初の計画どおり終了させることとし、引き続きホンデュラスの自立発展を見守り、またアフターケア等の必要性については今後の課題とすることとした。

2-2 プロジェクト終了後の対応について

ホンデュラス側から評価調査団に対して、プロジェクト終了後の対応として以下の内容

が示された。

(1) 看護婦等の人材開発の改善・促進について

看護婦は、ヘルスケアシステムにおける重要な人材として認識されている。厚生省は、大学やその他の施設との協力によって看護補助員養成校、病院、地域を含む保健区を通して「2000年までにすべての人々に健康を」というゴールを達成するための人材開発をさらに発展させていくとして、以下のことを行う。

- ① 看護教育強化センター（現プロジェクトセンター、以下同所をさす）の継続した活動を行うために、適当数の教育者やスタッフの維持に努める。
- ② 看護教員に対する教育および教育システムの継続的な再強化を図るために、プロジェクトの効果をモニターし、評価し、推進するための適切な予算の確保を保証する。
- ③ 看護教育強化センターにおいて、看護教員養成および特定領域における看護のコースを含めて定期的にセミナーを開催する。
- ④ 看護補助員養成校、国立自治大学医学部看護学科、看護教育強化センターの施設、整備、機器の運営・維持制度を確立する。

(2) 日本の援助に対する期待について

ホンデュラス側から、日本の援助に対する期待が表明された。

- ① 日本側としては、先に表明されたホンデュラスの看護婦等の人材開発のための今後の改善・促進についてなおいっそうの努力を期待する。
- ② 日本側としては、可能な限り、ホンデュラス側を支援する努力を行う。

(3) 看護教育強化センターの扱いについて

看護教育強化センターは、プロジェクト期間の活動拠点として、プロジェクト・サイトである6施設における看護教育強化のための活動支援等を通して、その中心的役割を果たしてきている。また上記のように、ホンデュラス側から示された今後の対応のなかでは、このプロジェクトセンターを中心に今までに移転された知識・技術を基盤として、さらに必要とされる人材の量的・質的向上を図るため、積極的かつ具体的な提案がなされている。このことから、今後プロジェクト終了後において、ホンデュラス国内での対応を進めるためには、このセンターが国のセンターとして果たす役割はきわめて大きく、また期待されていることが明らかである。

さらに、ミニッツの署名がなされた1995年3月17日に、厚生大臣は今後の看護教育強化センターの扱いについて、以下の内容を明示した文書をもって、引き続きセンターとしての機能を継続させることを示した。以下はその概要である。

「ホンデュラス国厚生大臣は、ミニッツにより署名された趣旨を踏まえて、看護教育

強化センターは、引き続きセンターとして、その運営・維持継続を図るものであることを、文書をもって決定した。」

第3章 協力実施の経過

3-1 プロジェクト成立の経緯

- 1989年12月 事前調査団派遣
- 1990年4月 長期調査員の派遣
- 1990年8月 実施協議調査団派遣、R/D署名
- 1990年9月 プロジェクト協力開始
- 1993年1月 計画打合せ調査団派遣
- 1994年3月 巡回指導調査団派遣
- 1995年3月 評価調査団派遣

3-2 プロジェクトの目的および目標

看護教員に対する技術移転により、看護補助員（R/D署名時には准看護婦と訳していたが、日本の准看護婦とはかなり違うので、混乱を避けるために看護補助員と訳すことになった）養成および看護婦養成の強化を図り、ホンデュラスの公衆衛生の改善に寄与することである。目標は以下のとおりであった。

- (1) 緊急に対処を要する領域における看護教育の理論および方法の改善
- (2) 看護教育カリキュラムの改善
- (3) 農村および都市における社会奉仕活動の改善と強化
- (4) 看護教育技術の改善
- (5) 看護教育用テキストの開発および改善

しかしながら、これらの目的では具体的に評価することが困難なため、1994年3月に派遣された巡回指導調査団において、日本側およびホンデュラス側双方により、各目標について具体的な目標を設定した（資料2参照）。

3-3 プロジェクトの暫定実施計画 (T S I)

R/D交換・署名時の T S I

	1990	1991	1992	1993	1994	1995
<p><目的および活動></p> <p>1. 緊急に対処を要する領域における看護教育の理論と方法の改善</p> <p>2. 看護教育カリキュラムの改善</p> <p>3. 農村および都市における実践看護技術の強化と改善</p> <p>4. 教員に対する看護技術の改善</p> <p>5. テキスト開発技術の改善</p>						
<p><日本人専門家の派遣></p> <p>1. リーダー</p> <p>2. 調整員</p> <p>3. 看護教育 (教育カリキュラム)</p> <p>4. 看護教育 (外科看護)</p> <p>5. 看護教育 (小児看護)</p> <p>6. 看護教育 (公衆衛生)</p> <p>7. 看護教育 (産科看護)</p> <p>8. 看護教育 (一般看護)</p> <p>9. 看護教育 (カリキュラム評価)</p> <p>10. その他</p>						
<p><研修員受入></p> <p>1. 看護教育政策</p> <p>2. 看護教育 (外科看護)</p> <p>3. 看護教育 (小児看護)</p> <p>4. 看護教育 (産婦人科看護)</p> <p>5. 看護教育 (カリキュラム評価)</p> <p>6. 看護教育 (公衆衛生)</p> <p>7. 看護教育管理</p>						
<p><調査団派遣></p> <p>1. 計画打合せ調査団</p> <p>2. 巡回指導調査団</p> <p>3. 評価調査団</p>						

3-4 協力実施プロセス

5年間の活動概要は次のとおりである。

(1) 1年目(1990年9月～1991年8月)

- ① 日本人専門家は、ホンデュラス側カウンターパートとプロジェクトチームを編成するとともに、各学校での教育展開および実習施設の現状を調査した。
その結果、教育施設の改善、看護教材の強化とその活用による授業展開の改善、およびスペイン語版図書配備の重要性を認め、実習室の拡大整備、視聴覚教材と看護教育機材を供与する計画を立てた。
- ② また、「2000年までにすべての人々に健康を」という世界宣言をもとに実施されている保健政策に合わせた、看護補助員養成のためのカリキュラム検討委員会に参加し助言した。さらに、「2000年に向かって求められる看護婦像」をテーマにしたセミナーを企画実施した。
- ③ スライド、TPシート、ビデオ等視聴覚教材の作成、活用方法に関する技術協力を開始した。
- ④ 自治大学の看護学生の社会奉仕活動の調査を始めた。
- ⑤ プロジェクト基盤整備計画および建設準備にかかった。
- ⑥ 第1回教科書作成委員会が1991年3月に開催された。

(2) 2年目(1991年9月～1992年8月)

- ① プロジェクトチームは、各学校の教員らを対象にした授業改善に向けてのセミナーやディスカッションを持ち始めた。
- ② 看護補助員養成のための新カリキュラムが導入され、教員らの間で画期的な教育方法の改善とされたのが「教室での授業や学内実習に代わって保健所や村落での教育展開に最重点を置く」というものであった。日本人専門家はこの急激な偏りに対して、展開の再検討を提案した。
- ③ 社会奉仕活動の調査継続、システム強化、教育的内容の強化にかかわる活動を続けた。
- ④ 各学校の実習室と図書室は、供与された機材と図書類によって少しずつ整備され始めた。
- ⑤ プロジェクトの拠点となるセンターが完成した。

(3) 3年目(1992年9月～1993年8月)

- ① 看護補助員養成のためのカリキュラム評価活動にかかわるとともに、母子看護実習展開のなかで小児看護分野での活動強化を行った。
- ② 社会奉仕活動の改善については、オリエンテーションプログラム、ビデオ教材お

よび実施のためのガイドラインを作成した。

- ③ 看護補助員養成のための教科書作成を開始した。
- ④ 基本的な看護教育教材はほとんどの学校に配備された。それに伴って、マネキンやモデルの使用法の講習会を開催した。

(4) 4年目(1993年9月～1994年8月)

- ① 看護補助員養成用の教科書作成促進のために委員会活動を強化した。
- ② 母性看護教育分野における授業および実習の強化を図るための計画が実施された。
- ③ 引き続きPHC(primary health care:プライマリー・ヘルスケア)分野での活動強化に重点を置いたプログラムを栄養、公衆衛生看護セミナー、保健調査などで実施した。
- ④ 機材供与継続の結果、各学校の整備状況は日本のそれと同レベルに到達し、日本人専門家らの提言や指導により学内実習の重要性が再認識され、これらの機材の利用度が高まった。
- ⑤ これまでに手がけてきたマニュアル類が完成し始めた。

(5) 最終年度(1994年9月～1995年8月)

- ① プロジェクトチームは、教科書、マニュアル、ビデオなどの成果品を完成させるべく努力した。また、授業、コミュニティーにおける研修、カリキュラム評価方法、社会奉仕活動の向上のための活動も推進した。プロジェクトチームは、プロジェクトの開始から現在までのプロジェクト活動を報告する会議を開き始めた。
- ② 1995年3月現在、協力期間終了までにいくつかの教科書の発行および看護教育カリキュラムの改善が重要な業務として残されている。

第4章 目標達成度

4-1 上位計画との整合性

ホンデュラスの基本政策である農村地域の住民に対する保健衛生サービスの充実、および乳幼児死亡率の低下を図るためには、その直接の担い手になる看護婦の量的確保と技術向上による質の確保が不可欠である。

このために、日本人専門家およびホンデュラス側カウンターパートによって構成されるプロジェクトチームを中心に、専門家派遣、研修員受入、機材供与、プロジェクト基盤整備事業等の協力が、保健省管轄の看護補助員養成校および国立自治大学医学部看護学科3校の看護教員を対象に行われ、本プロジェクトの目標はほぼ達成されたといえる。

すなわち、長期および短期専門家派遣、看護教員の日本での研修、看護教育用機材や視聴覚機材の供与を通して、看護教育の向上を図り、結果的に地域保健所で予防接種や栄養失調対策、母子保健など幅広い公衆衛生活動を行っている看護婦の技術水準を向上させることに成功している。このことは、農村地域住民に対する保健衛生サービスの充実と乳幼児死亡率の低下を図る基本的保健政策の推進に大きく貢献することになる。

4-2 案件目標の達成状況

(1) 看護教育理論、方法の改善

伝達講習を通して授業計画の立案ができるようになり、また、実習の計画・実施・評価の明確化や、実習指導要項が一部完成するなど、「教授計画、評価技術の向上」の目標は達成されている。

教材を使用しての授業の立案・実施もできるようになり、「効果的な学習のための教育技術向上」の目標も達成されている。

(2) カリキュラムの改善

「プロジェクトがスタートしたとき、わが国でもカリキュラム改善をしなければというときであったので、改善の方向へもっていくことができてラッキーでした」とテグシガルパ自治大学のファンタ氏は冒頭に述べて、カリキュラム改善の取り組みを語った。カリキュラム編成時の概念枠組みの導入や年間計画の重要性など、セミナーを通じての専門家のアドバイスを吸収して、積極的な取り組みの姿勢がみられた。新カリキュラム導入において、特に研究の分野の改善案で成果があったことが報告された。

(3) 社会奉仕の改善

この活動は、大学を対象に行っているが、社会奉仕の教育的認識が高まったり、現場臨床サイドの社会奉仕中の教育内容の改善がみられたことのほかに、社会奉仕を加えた

ことによって現場と教員の連携が強まったことが追加された。

(4) 看護教育技術の改善

授業計画の作成、授業に関する教育評価の実施、集中学内実習の実施、ことに母性分野の学内実習の実施は100%に達しており、十分成果があがっている。

教材作成については、JTR教材、スライド教材などの自主作成に取り組み、スライドはシナリオ書きまで取り組んでいる。ことにOHP教材への取り組みは、TPシートの作成についてセミナーで強化された編集がなされ、教材を選択しながら適切な授業が実施できるところをめざして行っている。

(5) 教科書作成技術の向上

プロジェクト開始前は、見たこともない、使ったこともなかった教科書づくりに取り組んだ結果、ホンデュラス初の看護教育のための教科書『国の現状』を完成させ、看護教育の現場で活用されている。イラストや図入りの教科書で学生たちは具体的に国民の生活や保健衛生の現状を学ぶことができるようになっている。

印刷直前の2冊と原稿作成開始分を含めて5種類の教科書づくりが進行中である。

4-3 アンケート調査によるホンデュラス側評価

(1) 帰国カウンターパート研修員に対するアンケート結果

1994年度までにプロジェクトから日本に派遣された研修員14名に対するアンケート調査の結果、全員から回答があり、研修の満足度は、「部分的によかった」という回答を含めれば全員満足しており、「よかった」は79%である。

現在役に立っている研修内容としては、「日本の教育方法」57%、「日本の保健システム」50%、「日本の教育システム」43%の順で、「教材作成」「調査手法」がそれぞれ29%となっている。

研修内容の改善意見については、「強化ポイントを置き時間をかける」が36%、「研修現場で体験学習の機会を得る」が29%、「研修生への評価を行い、適宜プログラムの修正をする」が14%である。

(参考) 日本で研修を受けた研修員についての所属長の評価

- ① 自然分娩介助と住民参加の実現
- ② 下記の点で当校の前進がみてとれる
 - ・教材の作成（ビデオ、テキスト）
 - ・学生養成期間における効果的な調査の頻繁な実施
 - ・実習方法の向上
- ③ 研修で受けた経験を実習に生かし、仕事の内容を向上させようとしている

④ ビデオ教材作成

- ・ホンデュラスが持っている肯定的な面を確認できたこと
- ・生活状態を改善するためのコミュニティーでの活動

⑤ 視聴覚教材の作成、テキストの作成、教授法の大きな支援となった

⑥ 教育を通して人間には物事を実現する能力があるということの確認

- ・授業展開で教育技術を向上させようとする努力
- ・看護婦の人間性および職業倫理の重要性の再確認
- ・日本の看護婦が生き生きと働く姿を通して、労働意欲が高揚している

⑦ カリキュラム展開実習、プログラム作成、学士教育プラン、教員への継続教育に大きく貢献している。

⑧ アルフォンシーナ（カウンターパート）は帰国してから15日しか経過していないため、研修に関する私の意見は後日述べられると思うが、彼女が日本で受けた研修や教育分野での教員養成内容をだいたい理解している。

⑨ 彼女は日本にいる間にいろいろな経験をし意見交換を行った。

- ・すべての教員が日本で得たものを当校の教育に適用することを確認している。
- ・リタ（カウンターパート）は非常にやる気を持って帰ってきており、今実習の準備に取りかかっている。
- ・日本ででの研修が非常に有効であったと私は確信している。

(2) 看護教員による看護教育強化プロジェクトの活動評価

プロジェクトがかかわった6施設の全教員を対象に、アンケート調査を行った結果である。

① 看護補助員養成校

回答者は、テグシガルパ校13名中11名、サンペドロスーラ校9名全員、 Cholteca 校7名全員の合計29名中27名（93%）である。

a. プロジェクトに対する意見

肯定的意見では、学習計画の向上、教員の能力の向上、実習や看護の質の向上などの「技術的支援」と、教材・機材の経済的支援や図書供与等の「物質的支援」など多くの支援を受けたと述べている。

否定的意見では、学校による差がみられ、テグシガルパ校では、言語上のコミュニケーション不足、文化や教育システムの違いによる相互理解不足をあげ、サンペドロスーラ校は、研修に参加できなかったこと、 Cholteca 校では、カウンターパート研修員が1名しかおらず、カウンターパートの人数の少なさをあげている。

b. 供与機材に対する評価

大変よい5、よい4、普通3、あまりよくない2、悪い1の5段階評価で、看護教育機器、一般教育機器、その他の3カテゴリーについて回答を得た。

看護教育機材については、テグシガルバ校の評価が低い。OHP、スライドなどの教育活動支援機材では否定的な回答者は皆無である。

車両やファクシミリなどのその他の機材の評価は高いが、テグシガルバ校の3名とチョルテカ校の1名はマイクロバスの使用をそれほど重要と考えていない。

② 国立自治大学医学部看護学科

回答者はテグシガルバ校17名中14名、サンペドロスーラ校14名全員、ラセイバ校13名全員、合計44名中41名（93%）である。

a. プロジェクトに対する意見

肯定面の意見としては、支援がなければレベルの向上はなかったというように、技術的支援と物質的支援の両面をあげているが、「目標を達成させたプロジェクトの活動はすばらしい」や「すばらしい形で援助した」、「人間関係から看護婦養成にかかわるいろいろな援助まですべてを高く評価する」など、看護補助員養成校よりもプロジェクトそのものに対する賛辞が多い。また、「管理の向上に貢献」など管理部門の援助もあげられている。

否定面の意見は、テグシガルバ校はプロジェクトが終了してしまうこと、サンペドロスーラ校は全員が研修に参加できないことを、それぞれ約半数があげている。ラセイバ校は無回答である。

b. 供与機材に対する評価

看護教育機材、教員活動支援機材、その他の機材とともにほとんどの教員が「大変よい」または「よい」と答えている。

(3) 政策担当者のプロジェクト評価

回答者は、プロジェクトの実施にあたって、現在および過去にかかわりのあった厚生行政政策担当者からリストアップした15名中10名（67%）である。

ホンデュラスでは、職能団体の意識・権利が強く、政策決定するときに強く意見が反映されるために参考意見として聴取したもの。

① プロジェクトの活動について

10名全員がプロジェクトの活動に対して肯定的な評価をしている。

② プロジェクトの継続か終了かについて

10名全員が継続を希望している。その理由としては、「看護分野のさらなる向上のため」4名、「地方レベル等目的の拡大」3名、「成果があがっているから」2名が

あげられている。

③ 協力継続の際の視点

「現行教育プログラム」4名、「地方レベルの拡大」2名、「専門看護の強化」1名、「現行プロジェクトの強化」1名となっている。

④ プロジェクトへの意見

肯定的な面では、「技術移転」7名、「システム改善（社会奉仕、研究システムを含む）」5名、「物質的支援」5名、「日本人との仕事の機会」2名となっている。

否定的な面では、「R/D対象以外への協力不足」4名、「スペイン語によるコミュニケーションの障害」2名、「日本語からスペイン語への翻訳不足」1名、「ホンデュラス側の依存体制」1名があげられている。

⑤ その他のつけ加えたい意見

日本への感謝の意の表明と、日本人専門家の熱意と実行力への賛辞があり、プロジェクトメンバーと支援を受けた人たちの関係は文化的相互理解があったと述べている。

「ホンデュラス政府は、このプロジェクトがなくならないように、できる限りの努力を示すべきである」という意見もある一方、プロジェクトの強化延長を願う声もあり、「プロジェクトは看護教育に多大な貢献をしたので、もう5年続けられるよう申請したいと考える。これは、看護職能だけに利益がもたらされるのではなく、この結果が国に還元されると思う」と積極的な延長希望が述べられている。

また、「プロジェクトは厚生省だけで考えるのではなく、看護協会も含め三者で協力協定に調印すべきであった。そうすれば、看護婦の参加がもっと容易にできたのではないか」という意見もある。

4-4 目標達成の理由

- (1) 適正な人材確保：ホンデュラス側および日本人専門家の人材配置も適切であったと思われる。優秀であるだけでなく、日本人長期専門家のほとんどが中南米での海外協力経験者であり、スペイン語および特有の社会・文化背景を十分に理解しており、これが、両国間の信頼関係をより強固なものにし、プロジェクトを成功に導いた。また中南米での経験がない専門家もスペイン語を習得し、コミュニケーションを図った。
- (2) 人的な継続性：リーダー、調整員が5年間通して担当し、また、調査団の団長も実施協議調査団から評価調査団まで同一人物であったことが、指導の一貫性、継続性において効果的であったと思われる。
- (3) ホンデュラス側の主体性の尊重：一方的に日本式の方法を押しつける行動をとら

ず、常にホンデュラス側の意思や要望、主体性を尊重したことがホンデュラス側の信頼感や主体性を育て、プロジェクトの活動を円滑にしたと思われる。このことについて、視察時にホンデュラス側のカウンターパートから、感謝の意が表明された。

- (4) 厚生省人的資源局がプロジェクトの運営管理面の直接の責任を負った。
- (5) 委員会を設置し、厚生省人的資源局や直接のカウンターパートのみならず、地域の看護教育責任者（社会奉仕の現場を含む）との連携を常に図った。
- (6) 教材作成などの成果品の作成のみにとどまらず、本来の技術協力の目的に沿い、看護教員の教育に対するモチベーションを高め、ホンデュラス側の主体性を尊重しつつ、その能力の開発に主眼を置いた。

第5章 案件の効果

T S I の主要5項目のそれぞれについて案件の効果を述べる。

5-1 緊急に対処を要する領域における看護教育理論および方法の改善

- (1) 教授・学習課程において、授業計画の強化と教材の活用が改善された。
- (2) 北部地区において、母性看護教育分野に関し、教員および臨床指導者に知識の強化と看護実践のための技術の強化が行われた。
- (3) 教育設備の改善により教授・学習課程の改善が容易となった。
- (4) 1390冊の図書は供与により教授・学習課程の改善がみられた。
- (5) 教員と臨床指導者の連携を通して実習が強化された。
- (6) P H C 分野における調査研究の核となるメンバーの結成とトレーニングの強化がなされた。また保健サービス改善のための研究成果が発表された。

本項目におけるプロジェクトの活動は、教育環境整備の拡充（教室・学内実習室の拡充および備品・事務機器などの機材供与）から始まり、次いで教授・学習課程の現状分析の後、各種セミナーの企画・開催によって授業計画（実習を含む）の立案、実施、評価等の強化が図られた。

プロジェクト開始当初、教材は極端に不足し、また、授業形態もまったく教員個人の資質に委ねられていた時期と現在とを比較すると、看護教育理論および技術の展開において、教員のレベルは飛躍的に改善された。また、カウンターパートとともに開発された種々の教材の利用によって、教授方法の展開はより効果的となった。

次にホンデュラスの基本的保健政策に特にかかわりのある母子保健・P H C の分野において、母性看護教員および臨床実習指導者のための研究集会（北部地区）の企画・実施によって、基礎知識および教育的視点の強化がより実践的に行われた。特に教員および実習指導者の実習（学内実習も含む）指導レベルの向上は著しいものとなった。また実習評価についても検討され、作成された評価表は即時使用に移されている。P H C 分野においては、調査研究を通し教育の重要性が確認された。また、このことは社会奉仕の強化および改善へさらに発展した。プロジェクトによって調査研究のトレーニングが強化されたことは、ホンデュラスの看護教育が今後発展するうえで大きく寄与することと思われる。

5-2 看護教育カリキュラムの改善

セミナー、ワークショップなどの活動を通して、新カリキュラムによる授業計画の評価、調査実施の援助を行った。

プロジェクトの基本姿勢として、カリキュラムの作成や変更には直接ふれず、ホンデュラス側から要望があった場合、アドバイスするという形をとった。プロジェクト開始当初は、看護補助員養成のためのカリキュラム改定の検討がすでに開始された時期でもあり、プロジェクトは、カリキュラムの概念枠組みの導入についてのアドバイスや、カリキュラムの展開・分析評価についてのセミナーを開催してカリキュラム改定の援助を行った。1991年3月までに、カリキュラムは全面改定された。

また、国立自治大学医学部看護学科のカリキュラム検討については、プロジェクトのセミナー開催を契機に、1991年カリキュラム検討委員会が設置され、1994年2月から新カリキュラムの一部が適用されている。

現在のプロジェクトの活動は、新カリキュラムの総合展開のための種々の講習会開催や、カリキュラム評価のための調査様式作成の援助である。

5-3 地方および都市における社会奉仕の強化と改善

- (1) 学生の背景調査と監督の強化により社会奉仕期間中の問題が減少した。
- (2) 専門看護婦レベルにおける社会奉仕が組織化され実施された。
- (3) 社会奉仕実施規約の改定と印刷、および学生へのオリエンテーションプログラムを実施した。
- (4) 地域および病院における社会奉仕のガイドラインを作成、改善し出版した。
- (5) 社会奉仕の監督とフォローアップを通して教員と臨床指導者との連携が図られた。

ホンデュラスは国民、とりわけ農村地域の住民に対する保健衛生サービスの充実、および乳児死亡率の低下を図ることを基本的保健政策としてあげている。ホンデュラスの看護教育制度においては、1年間の社会奉仕が義務づけられているが、「教員・現場・学生の三者が社会奉仕の教育的意味と位置づけを認識し、よりよい実施が行われる」よう改善に向けて努力がなされた。すなわち国内委員会、地区委員会が組織され、プロジェクトは社会奉仕実施規約の検討、印刷、発行を援助し、また、卒業生の業務強化対策としてオリエンテーションの実施や実習中および終了時の実施評価会の開催を援助した。

自治大学3校それぞれに専任の監督担当教員が任命されることにより、社会奉仕の教育的視点の強化がなされ、また、実施にあたって作成されたガイドブックは、自治大学の新カリキュラムの展開に組み込まれた。現在各校は計画に沿って実施し、学生への助言活動が継続確保されている。

社会奉仕活動は大学を対象として行われているものであるが、看護補助員養成校にも改善の波及効果がみられ、教育的認識が高まってきた。

5-4 教員の看護教育技術の改善

- (1) 7冊のマニュアル作成、活用により教授・学習課程が改善された。
- (2) 視聴覚教材の作成と活用のためのグループが強化され、16巻のビデオ教材が作成された。
- (3) OHP教材の作成方法と活用方法の指導が強化された。
- (4) 4組のスライド教材が作成された。

プロジェクト開始当初から教材作成に必要な機材が供与されたが、まず供与教材の使用法と教材作成についての研究会が実施された。特にOHPについては講習を受けたカウンターパートから他の教員への技術移転が可能までになり、また、ビデオについては帰国研修員を核としたビデオ教材作成グループが組織され、専門家の援助を受けて作成可能なレベルまで到達した。作成された上記の数多くの視聴覚教材は、T S I主要5項目のそれぞれの目標到達のために十分な効果を発揮している。

5-5 教科書作成技術の向上

- (1) 看護補助員養成用教科書として5つの教科目のうち『国の現状』の編集が完了し印刷配布された。
- (2) 基礎科目「食糧保障」と「母性看護」の最終原稿が完成した。

ホンデュラス初の看護教育のための教科書作成であったため、検討開始にあたり、まず1991年に教科書作成委員会が発足した（構成員は看護補助員養成校の代表者である）。単元別に各校が作成責任をとることとし、プロジェクトは教科書作成の基礎となる事柄に関するセミナーを企画・実施した。

1994年8月ホンデュラスにおける第1号の教科書として『国の現状』が完成した。各単元の教科書完成度については「食糧保障」および「母性看護」は最終原稿の段階、「社会参加」は70%完成、「成人看護」は40%、「小児看護」は原稿作成開始の段階であり、プロジェクト終了時までにはすべての単元が完成することを目標に、現在総力をあげて努力している。

また、作成の過程を通して教員間の協力体制が改善したことも注目に値する。

第6章 自立発展の見通し

評価調査団訪問時に開催されたプロジェクト評価委員会において、ホンデュラス厚生省は、看護職がヘルスケアシステムにおいて重要な位置を占めており、「2000年までにすべての人々に健康を」の目標達成に向けて、看護教育を通して人的資源開発の促進を図ることを表明した。またプロジェクト終了後の自立発展の見通しを明るくものとするために十分な次の4項目についても表明した。

- (1) 看護教育強化センターの活動継続のための要員を確保し、国内すべての看護職にプロジェクトの効果を波及させること。
- (2) 看護教員の教育・研修の持続的強化のために、プロジェクト効果の監視・評価・増進のための予算を獲得すること。
- (3) 看護教員強化センターにおいて定期的セミナーを開催すること。
- (4) 十分な予算の獲得のもと看護補助員養成校、大学および看護教育強化センターの備品および施設の運営・管理システムを確立すること。

以上により本プロジェクト活動は、ホンデュラスが今後も看護人材の養成を維持・発展させ、看護教員の資質の向上を図ることが十分可能であるよう物的・技術的自立発展を促すものであったと評価する。

第7章 フォローアップの必要性

5年間の協力によって、ホンデュラス厚生省の当局者および看護教員は、看護教育改善の十分な成果を実感している。そしてさらに、これに続く課題が数多くあることにも気づいており、そのような状況から数年後には、新しいプロジェクト（第2フェーズ）を、再び日本の協力を期待をかけながら再開したいという意欲が十分に見受けられた。

フォローアップとしては、以上のような厚生省および看護教員の今後の改善への努力を継続的に見届ける必要があり、その主要な点は、看護教育強化センターの活用状況、供与機材や教員自身による作成教材の活用による教育内容のよりいっそうの改善・向上、社会奉仕を通しての学校・病院・地域との連携の促進などがあげられる。

プロジェクト終了後においては、今回供与された機材のみならず、教員などの増員を図る必要があることから、国の財政やメンテナンスの予算も十分に確保する必要がある。また、ホンデュラスのプライマリーヘルスケアの第一線にいる看護婦などの数についても、今後質・量ともに補い、かつそのレベルが下がることのないようなサポート体制を考慮する必要がある。

第8章 評価結果総括

8-1 評価の総括

(1) 看護教育環境の整備・充実

プロジェクト・サイトである看護補助員養成校3校は、プロジェクト開始時と比較して、見違えるほどの立派な教育施設となり、教室・実習室の増設・整備、教材・図書、その他OA機器などの配備がなされたことで、看護教育環境としての体制が整った。また、これらの設備・備品についての管理も、教員・学生の双方にとっての利便性を考慮するなど、十分な工夫・改善がなされている。

(2) 看護教育方法および内容の改善・工夫

従来、ホンデュラスの看護教育では、多くの看護技術は病院や保健所などの現場においてじかに習得するものとして扱われており、看護教材がほとんど皆無の状態であったことから、学内実習で訓練するという方式はとられていなかった。また、教員の立場からみると、参考図書もほとんど皆無であり、新しい文献に接することも少なく、外部から系統的に知識や技術を取り入れて教育に生かしていく方法や手段について、乏しいままであった。

今回の協力によって、教員みずからが、共同作業によって教科書やビデオなどの教材を作成・開発したこと、実習室が積極的に確保され、供与機材をすべて活用した実習や授業が実施可能となったこと、それらに加えて、日本からの短期専門家によるセミナーにより、専門分野に関する系統的な知識・技術・実践の学習など、看護教員の看護教育に対する取り組みの強化に役立った。

プロジェクトの開始直後は、使用言語や異国文化などによるコミュニケーションバリアもみられたようであるが、長期専門家のたゆみない努力によってカウンターパートとの協力が得られ、教員たちの口から発せられたように100%に近い成果が得られたといえる。

(3) 看護婦等養成校と病院・地域との関係の強化

看護婦等養成校の教員は、従来は学校内において主として講義を受け持っており、病院・地域での実習は、一連の講義が終わった後で、社会奉仕として約1年の期間をかけて行われることになっている。プロジェクトの開始直後、社会奉仕の教育上の位置づけを明確にすることを目標にその改善を図ることとし、教員と現場の指導者および学生との意見交換を行い、実習体制づくりのための規約・組織を整備し、学校・病院・地域との連携が図れるようになった。このことは、ただ単に社会奉仕に関してだけでなく、授業で地域を対象にした調査研究に学生の目を向けさせるなど、教育内容の改善にも大き

な影響を与えている。

(4) その他

当初、プロジェクトは厚生省の看護補助員養成校のみを対象とする予定であったが、国立自治大学看護学科が加わったことで、その影響・効果がより強まったといえる。

また、これまでに日本で研修を受けた教員を中心に、彼女らにプロジェクト実施校の多くの教員が加わり、本プロジェクト終了後の次の看護教育の開発をめざした課題が提示されるなど、積極的な動きが見受けられた。

8-2 とるべき措置

プロジェクトの終了に際して、とるべき措置として以下のことが検討される必要がある。

(1) フォローアップ体制の明確化

プロジェクト終了後、3～5年にわたる期間のホンデュラスにおける保健医療や看護教育の方向を予測し、多面的に分析することにより、フォローアップの体制を明確にしておく。

例としてあげられる事業

- ① 二国間研修の実施
- ② 専門家派遣の実施

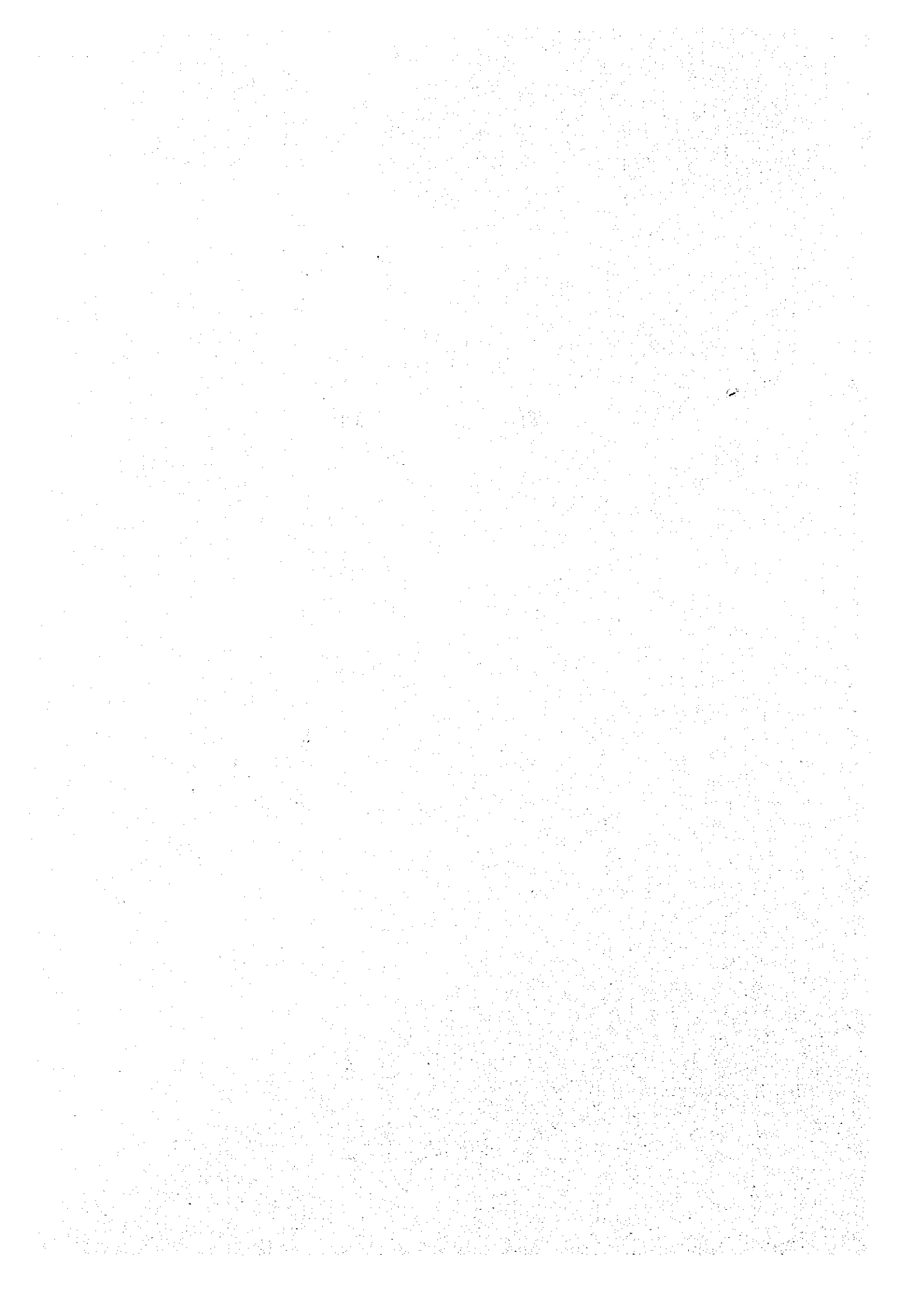
(2) その他アフターケアに相当する措置

いずれの内容の措置であろうと、看護教員はプロジェクトの成果から、そのエネルギーを継続させて自立を図る努力を惜しまないよう見受けられた。これらのことから、それを支えるための前向きな措置がとられることが望ましい。

8-3 教訓および提言

- (1) プロジェクト期間中、日本・ホンデュラスの両国の実施責任者が、比較的固定していたことが、今回の場合、有効に働いたといえよう。
- (2) 目標や達成度を可能な限り具体化したことが、調査団による調査をやりやすくしたのではないかと考える。
- (3) スペイン語圏において今後も実績の拡充が図れるよう、有能な人材を確保してもらいたい。

資 料



1 合同評価報告書 (英文)



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN JAPANESE EVALUATION TEAM AND THE AUTHORITIES CONCERNED
OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF HONDURAS
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT OF THE FORTIFICATION OF NURSING EDUCATION
IN
THE REPUBLIC OF HONDURAS

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team" organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), headed by Ms. Masako Yano visited The Republic of Honduras from March 9 to March 18, 1995 in order to jointly evaluate with the Honduran authorities concerned the past achievements of the Japanese Technical Cooperation for the Project of the Fortification of Nursing Education (hereinafter referred to as "the Project") on the basis of the Record of Discussions signed on August 16, 1990.

During its stay in The Republic of Honduras, the Team discussed and studied together with the Honduran counterpart personnel concerned with a number of aspects regarding the progress, performance of commitments and achievements of the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the Joint Evaluation Report attached hereto.

Tegucigalpa,
March, 17th, 1995

Ms. Masako Yano
Leader,
Japanese Evaluation Team,
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

Mr. Luis Alonso López Benítez
Vice Minister,
Ministry of Public Health,
The Republic of Honduras



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

JOINT EVALUATION REPORT

I. DATE, PLACE AND ATTENDANTS

Date : March 15th - March 17th, 1995

Place: The Center for Fortification of Nursing Education

Attendants:

JAPANESE PANEL

Japanese Evaluation Team

Ms. Masako Yano

Ms. Nobu Ide

Ms. Hisako Nahara

Ms. Hiroe Ono

Professor, The University of Tokyo

Vice President, St. Mary's Junior
College

Chief Lecturer, National Center for
Nursing Education and Research

Staff, JICA

Embassy of Japan

Mr. Haruyoshi Miura

First Secretary

JICA Honduras Office

Mr. Takeshi Nagase

Mr. Yoshikazu Koike

Mr. Cesar Morales

Director

Vice Director

Coordinator

Japanese Expert

Ms. Yoshiko Sugawara

Mr. Itsuo Kuzasa

Ms. Masako Ogawa

Ms. Yukiko Tomishima

Ms. Yumiko Murakami

Leader

Coordinator

Japanese Expert

Japanese Expert

Japanese Expert

Ms. Yuriko Egami

Japanese Expert

Hospital Division, Ministry of Public
Health

m. y



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

HONDURAN PANEL

Ministry of Public Health

Mr. Luis Alonso López Benítez

Mr. Jorge Alberto Medina

Ms. Liliana Mejia

Ms. Mayra Chang

Vice Minister

Chief of the Human Resources Division

National Coordinator of the Project

Director of Centro Nacional de
Adiestramiento de Recursos Humanos
(CENARH)

Ms. Sonia Bueso de Serrano

Director of Centro Regional de
Adiestramiento de Recursos Humanos
del Norte (CERARH NORTE)

Ms. Yolanda Echenique de Argeñal

Director of Centro Regional de
Adiestramiento de Recursos Humanos
del Sur (CERARH SUR)

Ms. Zulema Aguilar

Chief of Nursing Division

Professional Nurse Association

Ms. Gertalina Cerrato

President

National Autonomy University of Honduras

Ms. Juana Carolina Buchanan

Chief of the Nursing Department of
Universidad Nacional Autonoma de
Honduras (UNAH)

Ms. Marta Julia de Blair

Chief of the Nursing Department of Centro
Universitario Regional del Norte (CURN)

Ms. Iveth Garcia

Chief of the Nursing Department of Centro
Universitario Regional del Litoral Atlántico
(CURLA)

my



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

II. METHOD OF EVALUATION

1. Materials used as reference

In order to evaluate the past performance and achievements both quantitatively and qualitatively the following materials are used as a basis of reference:

- (1) The Record of Discussions.
- (2) The Tentative Schedule of Implementation.
- (3) The official requests made by the Government of the Republic of Honduras with respect to dispatch of Japanese experts, Honduran counterpart personnel training in Japan and provision of equipment by means of Technical Cooperation Forms A-1, A-2, A-3 and A-4 respectively.
- (4) The Minutes of Discussions agreed by both sides in the process of the implementation of the Project.
- (5) "Basic Information for the Project Evaluation, January 1995".

2. Discussion and Observation

The Team discussed various aspects of the Project and observed the buildings, machinery, equipment, facilities and utilities made available for the Project.

To recognize the impact and efficiency of the training, discussions were held with counterparts trained in Japan.

III. OBJECTIVE OF TECHNICAL COOPERATION OF THE PROJECT.

1. Objectives of the Project

According to the Record of Discussions signed on August 16, 1990, the Project purpose is to fortify the formation of the auxiliary nursing education through the teachers' training, as well as the registered nursing teachers' training, and thus contributing to the improvement of public health in the Republic of Honduras.

2. Objective of the Japanese Technical Cooperation

In order to accomplish the above-mentioned objective, both sides agreed that technical cooperation should be implemented on the following activities through dispatch of Japanese experts, acceptance of Honduran

m.7



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

counterpart personnel for technical training in Japan and provision of equipment.

- (1) To improve the theories and methods of nursing education in critical areas.
- (2) To improve the nursing education curriculum.
- (3) To improve and fortify the techniques of practical education in rural and urban areas.
- (4) To improve the techniques of education for teachers.
- (5) To improve the techniques of development for textbooks.

IV. PERFORMANCE OF THE PROJECT

1. Progress of Technical Cooperation

(1) First year (September, 1990 - August, 1991)

In the first place the Project Team (Honduran counterparts and Japanese experts) reviewed the on-going activities at each school. The Project Team suggested to fortify the above activities by emphasizing the importance of basic nursing techniques and maternal and child nursing technique. The Project Team planned to enlarge those practice rooms and other facilities, and to equip them with audio-visual, and office equipment, and nursing teaching materials.

Meanwhile, the Project Team joined the curriculum committee which improved curriculum for auxiliary nursing education, according to the strategy "Health for all by 2000".

The Project Team held utilization methods seminars to produce the audio-visual materials such as slide films, TP sheets, and videos. The first meeting of the textbook committee was held in March 1991.

(2) Second year (September 1991 - August 1992)

The practice rooms were being facilitated step by step with equipment and books provided. The Project Team started to have seminars and discussions on the improvement of the lectures at each school.

On the other hand, the reviewed curriculum for auxiliary nursing education was introduced with emphasis on the training in the community, which resulted in replacing practices and lectures in the

m. y.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

school; for integration of theories and the practices as a measure of improvement.

The Japanese experts suggested the improvement of basic nursing techniques in the practice room and the lecture room.

The curriculum committee for the Department of Nursing in the University in Tegucigalpa was established by OPS/OMS and the preparation work was started at each school.

It was also suggested to improve action research activities by Japanese short-term expert.

The Project Team studied the social service activities by students and started to improve the social service system and execution, with the educational point of view, besides the research as a review of element of curriculum process which took place at that moment.

The construction of the Center for Fortification of Nursing Education as the main project site was completed.

(3) Third year (September 1992 - August 1993)

The Project Team engaged in the curriculum evaluation activities.

The Project Team promoted to initiate making of the guideline for the social service activities, to establish the orientation programme for those students who were to participate in social service and to strengthen the integration of teaching and health services.

The Project Team started to make the new textbooks for nursing education. The basic teaching materials were provided to each school to almost satisfactory level and the Project Team taught how to use some of the equipment provided.

(4) Fourth year (September 1993 - August 1994)

The Project Team continued to develop seminars and workshop to put emphasis on the maternal and child health in the framework of primary health care, especially on the nursing at the birth.

The curriculum evaluation committee was established and the evaluation guideline (matrix) was introduced to be utilized for the monitoring and evaluation study.

As a result of the continuous provision of equipment, each school facilities reached to the same level with those in Japan. Honduran

M.Y.

[Signature]



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

counterparts were able to operate the major part of equip provided. The importance of the in-school practice was recognized again and those equipment was utilized more at such practices.

(5) Final year (September 1994 - March 1995)

The Project Team endeavored to complete the outputs of textbooks, manuals, video films, etc. The Project Team also accelerated the improvement of lectures, practice in the community, curriculum, evaluation method, and social service activities.

The Project Team continued to prepare the manuals of basic nursing techniques, and the guideline of practice for auxiliary nurses to complete them by the end of the project term.

The process of research and training has been continued among the nursing teachers to improve health service system in the country.

2. Staffing

At present, a total of seventy four (74) Honduran counterpart personnel have been assigned to the Project for the effective implementation and successful transfer of technology. The list of the Honduran counterpart personnel as of December 1994 is presented in ANNEX 1.

3. Japanese Experts

JICA has dispatched ten (10) long-term experts and fourteen (14) short-term experts whose names and fields are listed in ANNEX 2.

4. Honduran Counterpart personnel training in Japan

Thus far, fourteen (14) Honduran counterpart personnel were sent to Japan for technical training. Their names are listed in ANNEX 3.

5. Equipment

Between 1990 and 1994, the equipment worth approximately two million seven hundred twenty-five thousand US dollars (\$2,725,000) was provided to the Project by the Government of Japan. The main equipment and machinery are listed in ANNEX 4.

The above mentioned equipment for the Project provided by the Government of Japan has been used efficiently for the activities of the Project.

M. Y.

[Signature]



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

6. Facilities

The construction of the training center and practice rooms for the Project activities was executed by the assistance of the Government of Japan in July 1992 at a cost of two hundred seventy thousand forty eight US dollars (\$217,048). The related facilities (including maintenance staff, electricity, water, telephone and furniture) necessary for the implementation of the Project were provided by the Honduran side.

The Project constructed two lecture rooms in CERARH NORTE, at a cost of twenty nine thousand one hundred and thirty three US dollars (\$29,133), renovated practice room in CURLA at a cost of twenty two thousand four hundred and four US dollars (\$22,404) and constructed practice room in CURN, at a cost of thirty three thousand five hundred seventy two US dollars (\$33,572).

7. Budget

A summary of the Project cost spent by Honduran side is shown in ANNEX 5. Honduran side made the best effort to secure the budget necessary for the implementation of the Project in spite of being compelled to share the budget for some natural disasters.

8. Management and Administration

All administrative and managerial services are being provided by the Honduran counterpart personnel.

V. ANALYSIS

1. Objectives and Implementation Plan

It is still an important government policy of Honduras to strengthen the nursing education and the Project Implementation Plan has been efficiently guiding the Project team to the objectives.

2. Progress of Implementation

Dispatch of Japanese experts, Honduran counterpart personnel training in Japan, provision of equipment have been implemented according to the Record of Discussions.

M. J.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

The local inputs of staff and facilities by the Honduran side have been also executed adequately. Some portion of the local budget to be allocated by the Honduran government, however, has been compelled to the disaster relief activities.

3. Effects and Impacts

The following has been accomplished through each project activity.

(1) To improve the theories and methods of nursing education in critical areas.

- a) Improvement in teaching process, fortification of teaching plan and application of educational materials.
- b) Improvement of professional knowledge and skills of the teachers and clinical nurses in the northern region in the field of maternal nursing.
- c) Better access to the equipment and development of teaching-learning process through the renovation of educational facilities.
- d) Improvement of teaching-learning process through the donation of total of 1,390 volumes of books by the end of 1994.
- e) Strengthening of the practice through the intimate collaboration between teachers and clinical instructors.
- f) Formation and training of nucleus group for research on primary health care, and presentation of the results of research to improve the health care services of the areas.

(2) To improve the curriculum of the nursing education

- a) Supporting appropriate implementation of the new curriculum including the elaboration of teaching plan and its evaluation, through various activities such as seminars, workshops and etc.

(3) To improve and to fortify the techniques of practical education in the rural and urban areas.

- a) Decrease in problems during the social service as a results of research of the students background and fortification of supervision.
- b) Systematization and implementation of social service at professional nurse level.
- c) Revising and printing of the booklet "NORMAS Y PROCEDIMIENTOS DEL EJERCICIO DEL SERVICIO SOCIAL" and implementation of

M. Y.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

- suitable orientation programme for the students.
- d) Elaboration and publication of guideline for social service in community and hospital.
 - e) Integration between nursing teachers and practical instructors through the supervision and follow-up of social service.
- (4) To improve education techniques for teachers
- a) Improvement in teaching-learning process through preparation and application of seven (7) manuals.
 - b) Fortification of the group for audio-visual material preparation and application, and production of sixteen (16) volumes of educational video.
 - c) Fortification of producing technique and educational technique of OHP.
 - d) Production of four (4) series of educational slides.
- (5) To improve the techniques of development for textbooks
- a) Preparing, editing, printing and distributing of textbook "REALIDAD NACIONAL" which is one of five basic subjects to be prepared for auxiliary nursing schools.
 - b) Completion of the final draft of textbooks "SEGURIDAD ALIMENTARIA" and "ATENCION A LA MUJER".

VI. OTHERS

During the evaluation discussions, the Honduran side mentioned as follows:

1. Nursing personnel is recognized as important resource in the health care system, and the Ministry of Public Health, throughout the auxiliary nursing school, sanitary regions including hospitals, communities in coordination with the university and other institutions, will improve the development of human resources to achieve the goal "Health for all by 2000":

- (1) To maintain the proper number of trainers and staff for the continuous activities at the Center for Fortification of Nursing Education (the Center of the Project) so that the impact of the Project can be extended to all nurses in the country.

M.Y.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

- (2) To secure appropriate budget to monitor, evaluate and promote the Project effects for the continuous reinforcement of the education and training system for nursing teachers.
- (3) To hold seminars regulary, including courses such as nursing teachers training and nursing in special areas at the Center for Fortification of Nursing Education (the Center of the Project).
- (4) To establish the operation and maintenance system of equipment and facilities in the auxiliary nursing school, the university and the Center for Fortification of Nursing Education securing enough budget.

2. Honduran side expressed their expectation for Japanese support.

Japanese side commented as follows.

1. Japanese side expects efforts by Honduran side mentioned above.
2. Japanese side will make efforts to support Honduran side as much as possible.

VII. TRANSLATION

The Joint Evaluation Report was prepared in English and Spanish, each text being equally authentic.

In case of any divergence of interpretation, the English text will prevail.

m. y.

ANNEX - 1

List of Counterparts personnel in each institute

Dr. MEDINA Jorge Alberto	Chief of the Project
Ms. MEJIA Liliaua	National Coordinator of the Project

CENARH

Ms. CHIANG Mayra	Director
Ms. VELASQUEZ Virginia	Coordinator
Ms. BERRIOS Rosa Maria	Teacher
Ms. COLLART Alba Luz	Teacher
Ms. PINEDA Dora Liceth	Teacher
Ms. TREJO Verónica Janeth	Teacher
Ms. GUEVARA Liliau	Teacher
Ms. GAVARRETE Berta Alicia	Teacher
Ms. FERMAN Dolores	Teacher
Ms. ARGÑAL Rosa Haydee	Teacher
Ms. BLANCO Oneyda	Teacher
Ms. BANEGAS Thelma Yadira	Teacher
Ms. SABILLON Soledad	Teacher
Ms. PALMA Ester	Teacher

CERARH NORTE

Ms. SERRANO Sonia	Director
Ms. LABORIEL Dorotea	Coordinator
Ms. ARDON Paula Dolores	Teacher
Ms. FLORES Rosa Cecilia	Teacher
Ms. DURON Xiomara	Teacher
Ms. CARIAS Mayra Emilia	Teacher
Ms. ROCHA Melba Aracely	Teacher
Ms. RUIZ Maria Victoria	Teacher
Ms. LOBO Dilma E.	Teacher

m.y



CERARI SUR

Ms. ECHENIQUE Norma Yolanda	Director
Ms. ZELAYA Gloria	Teacher
Ms. VIVAS Ana Esther	Teacher
Ms. GARCIA Maria Luisa	Teacher
Ms. CASTILLO Marlen	Teacher
Ms. MORADEL Norma Ondina	Teacher
Ms. ALCANTARA Idania Maria	Teacher

UNAH

Ms. BUCHANAN Juana Carolina	Chief of the Nursing Department
Ms. LEDESMA Mirna	Coordinator
Ms. LOPEZ Elia Agustina	Teacher
Ms. GROGAN Reina Lidylia	Teacher
Ms. RODEZNO Maria Isabel	Teacher
Ms. HERRERA Aida	Teacher
Ms. MEZA Lilia E.	Teacher
Ms. AMADOR Maria de Lourdes	Teacher
Ms. REYES Sofia	Teacher
Ms. LOPEZ Ligia	Teacher
Ms. MEJIA Rina Yolanda	Teacher
Ms. VALLADARES Rosario	Teacher
Ms. LOPEZ Enriqueta	Teacher
Ms. MONTOYA Alfonsyna	Teacher
Ms. PARCHIMENT Chrystabel	Teacher

CURN

Ms. AMAYA Martha Julia	Chief of the Nursing Department
Ms. BALODANO Melba	Coordinator
Ms. LOPEZ Marta Elizabeth	Teacher
Ms. SUAZO Emelda Ruth	Teacher
Ms. ANDRADE Nidia	Teacher
Ms. ESCOBAR Silvia	Teacher
Ms. URRUTIA Norma Lastenia	Teacher
Ms. HIDALGO Tessa	Teacher
Ms. MENDOZA Eda Nohemi	Teacher
Ms. SANDERS Marta	Teacher

M.Y.



Ms. VILLALOBOS Rita Maria	Teacher
Ms. VENTURA Zoila Ruth	Teacher
Ms. POHL Erlinda	Teacher
Ms. RODRIGUEZ Gladys	Teacher

CURLA

Ms. CASTAÑEDA Iveth	Chief of the Nursing Department
Ms. RAMIREZ Dulce Maria	Teacher
Ms. FIALLOS Noemi	Teacher
Ms. BANEGAS Reyna Isabel	Teacher
Ms. LOPEZ Elia Ondina	Teacher
Ms. ACOSTA Idalmy	Teacher
Ms. ESCOBAR Maria Teresa	Teacher
Ms. MONTOYA Rosa Linda	Teacher
Ms. RIVERA Jean O'Dell	Teacher
Ms. TORRES Gladys Esperanza	Teacher
Ms. RAMIREZ Odila	Teacher
Ms. VILLAFRANCA Mirtha	Teacher
Ms. HAYES Maria Teresa	Teacher

m. 7



ANNEX - 2

List of Japanese Expert Dispatched by JICA

Long-term experts

NAME	FIELD	PERIOD
Ms. SUGAWARA Yoshiko	Leader	90.10.01 - 95.08.31
Mr. KUZASA Itsuo	Coordinator	90.09.17 - 95.08.31
Ms. OSHIMA Masako	Education Curriculum	90.10.01 - 92.09.31
Ms. MORI Yoshie	Education Curriculum	92.08.03 - 94.08.02
Ms. OGAWA Masako	Education Curriculum	94.08.14 - 95.08.31
Ms. ASAKURA Masako	Surgical Nursing	90.11.29 - 91.11.28
Ms. MURAKAMI Yumiko	Surgical Nursing	92.05.14 - 95.05.13
Ms. OSHIMA Eiko	Pediatric Nursing	92.01.09 - 94.01.08
Ms. HAYASHI Atsuko	General Nursing	92.04.23 - 94.04.22
Ms. TOMISHIMA Yukiko	Maternal and child health nursing	93.05.17 - 95.05.16

Short-term experts

NAME	FIELD	PERIOD
Mr. OGAWA Hosumi	Architecture	91.02.24 - 91.03.19
		92.07.01 - 92.07.16
Ms. ITO Akiko	Educational theory	91.06.17 - 91.07.01
Mr. MATSUDA Masanji	Public Health Investigation	91.11.11 - 91.12.13
		92.11.11 - 92.12.14
		93.12.02 - 92.12.21
		94.12.12 - 94.12.18
Ms. TERADA Mahiro	Educational Evaluation	92.02.12 - 92.3.13
Ms. KOTO Yasuhiro	Educational Materials	92.08.02 - 92.08.23
Ms. HINO Takako	Nutrition	93.07.22 - 93.12.25
Ms. OGAWA Masako	Educational Theory	93.05.24 - 93.07.29
		93.09.30 - 93.10.27
Ms. YAMAGISHI Harue	Public Health	94.08.07 - 94.08.27
Ms. MIYATA Katsuko	Public Health	94.08.07 - 94.08.27
Ms. YANO Masako	Nursing Administration	94.08.28 - 94.09.10

m.7

ANNEX -- 3

List of Honduran Counterpart sent to Japan

FYJ	NAME	FIELD	TERM
FYJ 90	Mr. VALENZUELA Renato	Nursing Administration	91.03.25 - 91.04.14
FYJ 91	Ms. MEJIA Liliana	Education planning	91.07.15 - 91.08.08
	Ms. CHANG Miriam	School administration	91.07.15 - 91.12.14
	Ms. BERRIOS Rosa Maria	Maternal Child nursing	92.01.27 - 92.06.28
FYJ 92	Ms. ALCANTARA Idania	Maternal Child nursing	92.09.21 - 93.02.27
	Ms. FLORES Cecilia	Curriculum	92.09.21 - 93.06.27
	Ms. CASTAÑEDA Iveth	Public Health	92.09.21 - 93.02.27
	Ms. VALLADARES Rosario	Surgical Nursing	92.09.21 - 93.06.27
FYJ 93	Ms. HIDALGO Tessa	Surgical Nursing	93.08.31 - 93.12.25
	Ms. AMADOR Lourdes	Public Health	93.08.31 - 93.12.25
	Ms. BUESO Sonia	Curriculum	93.08.31 - 93.11.06
FYJ 94	Ms. MONTOYA Alfonsyna	Curriculum	94.08.30 - 94.12.17
	Ms. COLLART Alba Luz	Curriculum	94.08.30 - 94.12.17
	Ms. MARTINEZ Rita	Investigation	94.08.30 - 94.12.01

my



ANNEX - 4

List of Main Equipment Donated to the Honduran Republic

FYJ 90

Name of the Equipment	The site to be located in
1. Copy machine (7)	a, b, c, d, e, f, g
2. Manequin for nursing education (15)	a, b, c, d, e, f
3. Intravenous injection simulator (12)	a, b, c, d, e, f
4. Vechicle (6)	a,b,c,g
5. Enema training simulator (12)	a,b,c,d,e,f
6. Over head projector (8)	a,b,c,d,e,f,g
7. Camera (8)	a,b,c,d,e,f,g
8. Color television set (7)	a,b,c,d,e,f,g
9. Gadget bed (15)	a,b,c,d,e,f,g
10. Slide projector (8)	a,b,c,d,e,f,g

FYJ 91

1. Computer (7)	a, b, c, d, e, f, g
2. Manequin for nursing education (15)	a, b, c, d, e, f
3. Recording resucitation Anne (7)	a, b, c, d, e, f, g
4. Resuscitation baby (7)	a, b, c, d, e, f, g
5. Vital signs baby model (12)	a, b, c, d, e, f
6. Video camera (6)	a, b, c, d, e, f
7. Faximile (5)	b, c, d, e, f, g
8. Skeleton model (6)	a, b, c, d, e, f
9. Electric birth fantom (6)	a, b, c, d, e, f
10. Video deck (6)	a, b, c, d, e, f

FYJ 92

1. ICU equipment (1)	g
2. Delivery bed (5)	a, b, d, e, f
3. Microscope (9)	d, e, f
4. Microscope camera (6)	d, e, f
5. Stretcher (10)	a, b, c, d, e, f, g, h, i, j
6. Wheel chair (30)	a, b, c, d, e, f, h, i, j

M. Y.



- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 7. Suction unit (10) | a, b, c, d, e, f, g, h, i, j |
| 8. Oxigen supply equipment (30) | a, b, c, d, e, f, h, i, j |
| 9. Nebulizar (12) | a, b, c, d, e, f, g, h, i, j |
| 10. Vital signs baby model (6) | a, b, c, d, e, f |

FYJ 93

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| 1. Incubator (1) | g |
| 2. Impressor (1) | g |
| 3. Family planning set (20) | a, b, c, d, e, f |
| 4. Birth diagnostic model (22) | a, b, c, d, e, f |
| 5. Auxiliary birth model (26) | a, b, c, d, e, f |
| 6. Doppler fetus detector (7) | a, b, c, d, e, f, g |
| 7. Spring scale for placenta (7) | a, b, c, d, e, f, g |
| 8. Sexual education doll (13) | a, b, c, d, e, f, g |
| 9. Dial scale for neonate (1) | g |
| 10. Pelvis model (7) | a, b, c, d, e, f, g |

FYJ 94

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1. Electric cardiogram (9) | a, d, e, f |
| 2. Stretcher (15) | h, i, j |
| 3. Wheel chair (30) | h, i, j |
| 4. Copy machine (7) | a, b, c, d, e, f, g, |
| 5. Birth diagnostic model (33) | a, b, c, d, e, f |
| 6. Microphone set (7) | a, b, c, d, e, f, g |
| 7. Microscope (20) | a, b, c, d |
| 8. Computer (6) | d, e, f, g |
| 9. Nebulizer (30) | h, i, j |
| 10. Ambu bag (10) | h, i, j |

The alfabet symbols mean as follows

- | | |
|-----------------|------------------------|
| a: CENARH | g: Project center |
| b: CERARH NORTE | h: Hospital Escuela |
| c: CERARH SUR | i: Hospital San Felipe |
| d: UNAH | j: Hospital del Tórax |
| e: CURN | |
| f: CURLA | |

m.7



ANNEX - 5
National Budget for the Project

A. PART OF THE PUBLIC HEALTH MINISTRY

(Unit: Lempiras)

INSTITUTE	1991	1992	1993	1994	1995	TOTAL
CENARH	40,000	40,500	12,000	12,000	12,000	116,500
CERARH NORTE	30,000	30,000	8,000	8,000	8,000	84,000
CERARH SUR	30,000	30,000	8,000	8,000	8,000	84,000
Counterpart budget	-	-	557,880	557,880	557,880	1,673,640
Total	100,000	100,500	569,880	569,880	569,880	1,910,140

* Counterpart budget is assigned for the Project activities by Public Health Ministry

B. PART OF NATIONAL AUTONOMY UNIVERSITY OF HONDURAS

(Unit: Lempiras)

INSTITUTE	1991	1992	1993	1994	1995	TOTAL
C.U. Tegucigalpa	17,000	25,000	35,400	42,200	50,000	169,600
CURN San Pedro Sula	6,000	8,800	10,300	12,882	15,800	53,782
CURLA La Ceiba	75,371	79,249	81,782	96,782	106,782	439,966
Total	92,971	113,082	127,482	151,864	171,782	663,340

m. j



1 合同評価報告書 (西文)



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

MINUTA DE DISCUSION Y EVALUACION CONJUNTA ENTRE
LA MISION JAPONESA Y LAS AUTORIDADES DEL GOBIERNO DE LA
REPUBLICA DE HONDURAS
EN LO REFERENTE A LA COOPERACION TECNICA JAPONESA
PARA
EL PROYECTO DE FORTALECIMIENTO DE LA EDUCACION EN ENFERMERIA EN LA
REPUBLICA DE HONDURAS

La Comisión de Evaluación de la Misión Japonesa (en lo sucesivo denominada "El Equipo de Evaluación"), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional "JICA" y encabezada por la Sra. MASAKO YANO, quien visitó la República de Honduras del 9 al 18 de marzo de 1995; para que en forma conjunta con autoridades Hondureñas se efectuara la evaluación de las actividades referentes al proyecto de FORTALECIMIENTO DE LA EDUCACION EN ENFERMERIA (en lo sucesivo denominado "El Proyecto") con base en el Acuerdos de Discusión firmados el 16 de Agosto de 1990.

Durante su estadia en la República de Honduras, El Equipo de Evaluación discutió y analizó con la contraparte nacional hondureña, varios aspectos relacionados con el progreso, ejecución, acuerdos y alcances del Proyecto.

Como resultado de la discusión ambas partes convienen recomendar a los respectivos gobiernos los asuntos en los cuales se hace referencia en el documento adjunto.

Tegucigalpa, M.D.C., 17 de Marzo de 1995

Sra. MASAKO YANO
Jefe Misión Japonesa de Evaluación
Agencia de Cooperación Internacional del Japón
(JICA)

Sr. LUIS ALONSO LOPEZ BENITEZ
Vice Ministro
Secretaría de Salud Pública
República de Honduras



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

I. FECHA, LUGAR Y PARTICIPANTES

Fecha: Del 15 al 17 de Marzo de 1995

Lugar: Centro de Fortalecimiento de la Educación en Enfermería

Miembros del Equipo Japonés de Evaluación

Sra. Masako Yano	Decana de la Facultad de Enfermería, de la Universidad Nacional de Tokyo
Srita. Nobu Ide	Vice Rectora de la Universidad Santa María
Sra. Hisako Nahara	Jefa de Catedráticos Centro Nacional para el Estudio e Investigación en Enfermería, Ministerio de Salud Pública
Srita. Hiroe Ono	Funcionaria del Departamento de Cooperación en Desarrollo de Salud - JICA

Embajada del Japón

Sr. Haruyoshi Miura	Primer Secretario
---------------------	-------------------

Funcionarios de JICA en Honduras

Sr. Takeshi Nagase	Director
Sr. Yoshikazu Koike	Sub Director
Sr. Cesar Morales	Coordinador de Cooperación Técnica en JICA

Asesores Japoneses

Sra. Yoshiko Sugawara	Lider de Asesores Japoneses
Sr. Itsuo Kuzasa	Coordinador
Sra. Masako Ogawa	Asesora Japonesa del Proyecto
Srita. Yukiko Tomishima	Asesora Japonesa del Proyecto
Sra. Yumiko Murakami	Asesora Japonesa del Proyecto
Srita. Yuriko Egami	Asesora Japonesa División de Hospitales, M.S.P.

M. Y



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

Miembros del Equipo Hondureño de Evaluación

Ministerio de Salud Pública

Sr. Luis Alonso López Benítez
Sr. Jorge Medina

Vice Ministro
Jefe Div. de Desarrollo de Recursos
Humanos, Director del Proyecto.

Sra. Liliana Mejía
Sra. Mayra Chang

Coordinadora Nacional del Proyecto.
Directora del Centro Nacional de
Adiestramiento de Recursos Humanos
(CENARH)

Sra. Sonia Bueso de Serrano

Directora del Centro Regional de
Adiestramiento de Recursos Humanos
del Norte (CERARH NORTE)

Sra. Yolanda Echenique de Argeñal

Directora del Centro Regional de
Adiestramiento de Recursos Humanos
del Sur (CERARH SUR)

Sra. Zulcma Aguilar

Jefa de la División de Enfermería

Colegio de Profesionales de Enfermería

Sra. Gertalina Cerrato

Presidenta

Universidad Nacional Autónoma de Honduras

Sra. Juana Carolina Buchanau

Jefa Depto. de Educación en Enfermería
(UNAH)

Sra. Martha Julia Amaya

Jefa Depto. de Educación en Enfermería
del Centro Universitario Regional del
Norte (CURN)

Sra. Iveth Garcia

Jefa Depto. de Educación en
Enfermería del Centro Universitario
del Litoral Atlántico (CURLA)



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PÚBLICA
República de Honduras, Centro América

II. METODO DE EVALUACION

1. Materiales usados como referencia.

Para evaluar la implementación y alcances en forma cualitativa y cuantitativa se usaron los siguientes materiales como base de referencia:

(1) Acta de Discusión

(2) Plan Tentativo de Implementación

(3) Los requerimientos oficiales hechos por el Gobierno de Honduras, con referencia al despacho de asesores japoneses, personal de contraparte hondureña para capacitación en el Japón y provisión de equipos, mediante Formularios de Cooperación Técnica A-1, A-2, A-3 y A-4.

(4) Las minutas de Discusión acordadas por ambos lados en el proceso de la implementación del Proyecto.

(5) "La información básica para la evaluación del Proyecto hasta enero de 1995"

2. Discusión y Observación

El Equipo de Evaluación discutió varios aspectos del Proyecto y observó el mejoramiento de los ambientes educativos (edificios) maquinarias y equipos que se hicieron posible a través del Proyecto.

Para reconocer el impacto y la eficiencia de la capacitación se llevaron a cabo discusiones con contrapartes capacitadas en el Japón.

III. OBJETIVOS DE LA COOPERACION TECNICA JAPONESA

1. Objetivos del Proyecto

De acuerdo al Acta de Discusión firmada el 16 de Agosto de 1990, el propósito del Proyecto es el de fortalecer la formación de auxiliares de enfermería, a través de la capacitación de las docentes, así como la capacitación de las docentes de las escuelas de enfermeras profesionales

m.y

[Firma]



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

y de ésta manera contribuir al mejoramiento de la salud en la República de Honduras.

2. Objetivos de la Cooperación Técnica Japonesa

- (1) Mejorar las teorías y métodos de la educación en enfermería en áreas críticas.
- (2) Mejorar el programa de estudios para la educación de enfermería.
- (3) Mejorar y fortalecer las técnicas de educación práctica en las áreas rurales y urbanas.
- (4) Mejorar las técnicas de educación para las docentes.
- (5) Mejorar las técnicas para el desarrollo de libros textos.

IV. IMPLEMENTACION DEL PROYECTO

1. Resumen Anual de Cooperación Técnica.

(1) Primer Año (Septiembre 1990 - Agosto 1991)

En primer lugar, el equipo del Proyecto (contrapartes hondureñas y asesores japoneses) revisó las actividades en proceso en cada centro. Para el fortalecimiento de la educación en enfermería, el equipo enfatizó en la importancia de las técnicas básicas de enfermería y la atención materno infantil en enfermería.

El equipo del Proyecto planificó la ampliación de las aulas de práctica y otras facilidades en algunos centros y dotó con equipo didáctico y de oficina y material audiovisual.

Asimismo el equipo del Proyecto participó en algunos momentos en la revisión curricular, en la formación de auxiliares de enfermería que había emprendido el Ministerio de Salud, en concordancia con las metas "Salud para Todos en el año 2000".

El equipo del Proyecto realizó capacitaciones (seminarios y talleres) para facilitar la producción de material audiovisual tales como: diapositivas, láminas de retroproyector y videocasetes.

M. y



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

La primera reunión del comité de producción de textos se realizó en el mes marzo de 1991.

(2) Segundo Año (Septiembre 1991 - Agosto 1992)

Las aulas de práctica se fortalecieron progresivamente con equipos y libros donados. El equipo del Proyecto inició discusiones y capacitaciones para el mejoramiento de las clases teóricas en cada centro; como una estrategia para integrar la teoría y la práctica.

En otros aspectos en el desarrollo del curriculum de formación de auxiliares de enfermería se hizo énfasis en la capacitación en la comunidad, lo cual resultó en el reemplazo en alguna medida de la práctica y las clases en el centro.

Posteriormente los asesores japoneses sugirieron fortalecer las técnicas básicas de enfermería en el laboratorio intra-aula.

El Departamento de Educación en Enfermería de la Universidad en Tegucigalpa formó el comité de desarrollo curricular con el apoyo de la OPS/OMS y posteriormente comenzaron los trabajos en cada centro.

Para el mejoramiento de actividades se sugirió la investigación, acción a través de un asesor japonés a corto plazo.

El equipo del proyecto realizó diferentes investigaciones sobre la situación de los estudiantes en servicio social y se inició el mejoramiento del sistema de seguimiento desde el punto de vista educacional, además la investigación sirvió de insumo al proceso de revisión curricular que se realizaba en ese momento.

Se finalizó la construcción de la sede del Proyecto.

(3) Tercer Año (Septiembre de 1992 - Agosto de 1993)

El equipo del Proyecto apoyó la evaluación del curriculum de auxiliares de enfermería; promovió la elaboración de la guía de servicio social para fortalecer la orientación y evaluación de los estudiantes en su desempeño y el fortalecimiento de la integración docencia servicio.

El equipo del Proyecto inició la producción de textos para auxiliares de enfermería; suministró los materiales didácticos básicos necesarios a cada centro en cantidades suficientes; realizó diferentes actividades de capacitación sobre el uso y manejo de material didáctico donado.

M.Y



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

(4) Cuarto Año (Septiembre 1993 - Agosto 1994)

El equipo del Proyecto continuó desarrollando seminarios y talleres para el fortalecimiento de los conocimientos y prácticas de enfermería en la atención primaria materno infantil especialmente durante el parto; así como en otras áreas.

Se estableció el comité de evaluación curricular y se inició la elaboración de la guía de evaluación y monitoría de los estudiantes en el programa de formación de auxiliares de enfermería.

Como resultado de la provisión continua de equipo en cada centro se alcanzó un nivel adecuado, las contrapartes hondureñas se capacitaron en el uso y manejo de algunos equipos y los utilizaron mejor en el proceso educativo.

(5) Ultimo Año (Septiembre 1994 - Agosto 1995)

El equipo del Proyecto se esforzó en completar la elaboración de textos, manuales, videos, etc., también avanzó en el mejoramiento del proceso enseñanza aprendizaje en la teoría y en la práctica comunitaria; en el mejoramiento del método de evaluación del curriculum y la realización del servicio social.

El equipo del Proyecto continuó preparando el manual de Técnicas Básicas de Enfermería y la Guía de Práctica de la auxiliar de enfermería, los que serán completados al final del Proyecto.

El proceso de investigación y capacitación se ha continuado entre docentes de enfermería para mejorar el sistema de servicio de salud en el país.

2. Personal del Proyecto.

Hasta el momento un total de 74 recursos humanos de contraparte hondureño fueron asignados para la efectiva implementación del Proyecto y la exitosa transferencia de tecnología. La lista de contrapartes hondureños se presenta en el Anexo #1.

3. Asesores Japoneses

JICA ha enviado diez (10) asesores de largo plazo y catorce (14) asesores de corto plazo, cuyos nombres y campos están descritos en el Anexo #2.

M.Y



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

4. Personal de Contraparte Hondureña Capacitadas en el Japón.
Hasta ahora catorce (14) contrapartes hondureñas fueron enviadas para capacitación al Japón, sus nombres y áreas se describen en el Anexo #3.

5. Equipamiento
Entre 1990 y 1994, el costo en equipo suministrado al Proyecto por el gobierno de Japón tuvo un valor de dos millones setecientos veinte y cinco mil dolares (\$ 2,725,000.00).
El equipo y maquinaria principales se enlistan en el Anexo #4
Los equipos mencionados anteriormente para el Proyecto fueron suministrados por el Gobierno del Japón y eficientemente utilizados en las actividades del Proyecto.

6. Construcción y Méjoramiento de Ambientes Educativos
La construcción de la sede del Proyecto para las actividades del mismo fueron ejecutadas con la asistencia técnica del Gobierno de Japón en Julio de 1992, con el costo de aproximadamente doscientos diez y siete mil cuarenta y ocho dolares (\$217,048). Las facilidades relacionadas con las necesidades (incluyendo personal de apoyo, electricidad, agua, teléfono y mobiliario) para la implementación del Proyecto fueron suministrados por el Gobierno de Honduras.

El proyecto construyó 2 aulas en el CERARH NORTE con un costo de veintinueve mil ciento treinta y tres dólares (\$29,133), remodeló los laboratorios de práctica en el CURLA con un costo de veintidos mil cuatrocientos cuatro dólares (\$22,404), construyó un laboratorio de práctica y remodeló 2 en el CURN con un costo de treinta y tres mil quinientos setenta y dos dolares (\$33,572).

7. Presupuesto.
El resumen del costo del Proyecto utilizado por parte de Honduras se incluye en el Anexo #5.
Por parte de Honduras se hizo el mejor esfuerzo para asegurar el presupuesto necesario para la implementación del Proyecto, a pesar de que tuvo que compartir el presupuesto con desastres naturales que ocurrieron en el periodo del Proyecto.

my



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

8. Administración y Manejo

Todos los servicios de administración y gerencia del Proyecto fueron proporcionados por personal de contraparte hondureña.

V. ANALISIS

1. Objetivos e Implementación del Plan

Es una política importante del Gobierno de Honduras el fortalecimiento de la educación de enfermería, el plan de implementación del Proyecto fueron orientados eficientemente por el equipo para el logro de objetivos.

2. Avances en la Implementación

El despacho de asesores japoneses, la capacitación de contrapartes en el Japón y fueron implementados de acuerdo al Acta de Discusión.

La ubicación de contrapartes de personal y el mejoramiento de ambientes educativos por parte del Gobierno de Honduras fueron ejecutados adecuadamente. Algunas partes del presupuesto local fueron adjudicados por el Gobierno de Honduras, sin embargo fueron utilizados para apoyar desastres naturales.

3. Efectos e Impactos

Los siguientes objetivos fueron desarrollados a través de las actividades del Proyecto:

(1) Mejorar las teorías y métodos de Educación en Enfermería en áreas críticas

a) Mejoramiento del proceso enseñanza aprendizaje, fortalecimiento de la planeación didáctica y la utilización de material didáctico.

b) Mejoramiento de conocimientos, técnicas y destrezas en el campo materno con docentes y enfermeras de servicio en la zona norte.

c) A través del mejoramiento de ambientes educativos se mejoró la administración de los equipos y el desarrollo del proceso enseñanza aprendizaje.

M.Y.

[Firma]



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

- d) Mejoramiento del proceso enseñanza aprendizaje a través de la dotación de bibliografía actualizada a las bibliotecas, habiendo un total de 1,390 volúmenes hasta finales de 1994.
 - e) Fortalecimiento del desarrollo de la práctica a través de la integración docencia servicio
 - f) Formación y capacitación del núcleo de investigación en atención primaria de salud y divulgación de los resultados de las investigaciones realizadas para mejorar los servicios de salud en el área.
- (2) Mejorar el currículum de formación de Enfermería
- a) Apoyo a la implementación del nuevo currículum incluyendo la elaboración del plan didáctico y la evaluación a través de actividades como seminarios, talleres, etc.
- (3) Contribuir a fortalecer las técnicas educativas en la práctica en áreas rurales y urbano marginales.
- a) Disminución de problemas durante el servicio social, a través de la realización de investigaciones sobre las características y condiciones de los estudiantes y fortalecimiento de la supervisión.
 - b) Sistematización del seguimiento del servicio social en el nivel profesional de enfermería.
 - c) Revisión, impresión e implementación del manual de "Normas y Procedimientos del Servicio Social".
 - d) Revisión, impresión e implementación de la Guía de Práctica del Servicio Social Comunitaria y Hospitalaria.

my



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

- e) Integración Docencia Servicio a través de la supervisión y seguimiento del servicio social.
- (4) Contribuir a mejorar las técnicas educativas con docentes
- a) Mejoramiento del proceso enseñanza aprendizaje, a través del cual se ha elaborado 7 manuales.
 - b) Fortalecimiento del núcleo de elaboración de videos habiendo producido hasta la fecha 16 videos didácticos.
 - c) Fortalecimiento en las técnicas didácticas de elaboración, uso y manejo de láminas de retroproyector.
 - d) Elaboración de 4 programas didácticos en diapositivas.
- (5) Contribuir a mejorar las técnicas de elaboración de libros de texto
- a) Elaboración, impresión y distribución del texto sobre "Realidad Nacional", éste es uno de las 5 unidades sobre conocimientos básicos en la formación de auxiliares de enfermería.
 - b) Elaboración del último borrador de los textos sobre "Seguridad Alimentaria" y "Atención a la mujer".

VI. OTROS

Durante la reunión de discusión por parte de Honduras se mencionó los siguiente:

1. Se reconoce que el personal de enfermería es el recurso nuclear en el que descansa la atención en salud, el Ministerio de Salud Pública a

M. J.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

través de las escuelas de auxiliares, regiones sanitarias (incluyendo hospitales), las comunidades y en coordinación con la Universidad y otras Instituciones mejorará el desarrollo de los recursos humanos para alcanzar la meta "salud para todos en el año 2000".

- (1) Mantener el número apropiado de personal de enfermería y de apoyo para la continuidad de las actividades en el centro de formación de enfermería (sede del Proyecto) a fin de que el impacto de éste se extienda a todas las enfermeras en el país.
 - (2) Asegurar el presupuesto adecuado para la monitoría, evaluación y promoción de los efectos del Proyecto para el continuo reforzamiento de la formación y el sistema de capacitación para las enfermeras docentes.
 - (3) Desarrollar permanentemente seminarios en áreas críticas en enfermería incluyendo la capacitación de docentes en el centro de capacitación de enfermería (sede del Proyecto).
 - (4) Asegurar el presupuesto adecuado para el sistema de uso y mantenimiento del equipo tanto en la sede como en los centros educativos para fortalecer la formación de auxiliares y profesionales de enfermería.
2. Por el lado de Honduras expresó su expectativas de apoyo al Gobierno del Japón

Por el lado del Japón se expresó lo siguiente:

1. Los japoneses esperan que la parte hondureña cumpla con los incisos mencionados anteriormente.
2. El lado japonés hará esfuerzos por apoyar en todo lo que esté a su alcance el lado hondureño.

M.Y.

AR



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL
DESPACHO DE SALUD PUBLICA
República de Honduras, Centro América

VIII. DISCREPANCIA

Esta Minuta fué elaborada en inglés y español cada texto es igualmente auténtico, el documento en inglés regirá en caso de que ocurra discrepancia entre ambos documentos.

my

ANEXO -1

Listado de personal contraparte

Sr. MEDINA Jorge Alberto
Sra. MEJIA Liliana

Jefe del Proyecto
Coordinadora Nacional del Proyecto

CENARH

Sra. CHANG Mayra
Sra. VELASQUEZ Virginia
Sra. BERRIOS Rosa Maria
Sra. COLLART Alba Luz
Sra. PINEDA Dora Liceth
Sra. TREJO Verónica Janeth
Sra. GUEVARA Lilian
Sra. GAVARRETE Berta Alicia
Sra. FERMAN Dolores
Sra. ARGEÑAL Rosa Haydee
Sra. BLANCO Oneyda
Sra. BANEGAS Thelma Yadira
Sra. SABILLON Soledad
Sra. PALMA Ester

Directora
Coordinadora
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente

CERARH NORTE

Sra. SERRANO Sonia
Sra. LABORIEL Dorotea
Sra. ARDON Paula Dolores
Sra. FLORES Rosa Cecilia
Sra. DURON Xiomara
Sra. CARIAS Mayra Emilia
Sra. ROCHA Melba Aracely
Sra. RUIZ Maria Victoria
Sra. LOBO Dilma E.

Directora
Coordinadora
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente
Docente

M. y



CERARII SUR

Sra. ECHENIQUE Norma Yolanda	Directora
Sra. ZELAYA Gloria	Docente
Sra. VIVAS Ana Esther	Docente
Sra. GARCIA Maria Luisa	Docente
Sra. CASTILLO Marlen	Docente
Sra. MORADEL Norma Ondina	Docente
Sra. ALCANTARA Idania Maria	Docente

UNAH

Sra. BUCHANAN Juana Carolina	Jefe del Departamento de Enfermería
Sra. LEDESMA Mirna	Coordinadora
Sra. LOPEZ Elia Agustina	Docente
Sra. GROGAN Reina Lidylia	Docente
Sra. RODEZNO Maria Isabel	Docente
Sra. HERRERA Aida	Docente
Sra. MEZA Lilia E.	Docente
Sra. AMADOR Maria de Lourdes	Docente
Sra. REYES Sofia	Docente
Sra. LOPEZ Ligia	Docente
Sra. MEJIA Rina Yolanda	Docente
Sra. VALLADARES Rosario	Docente
Sra. LOPEZ Enriqueta	Docente
Sra. MONTOYA Alfonsyna	Docente
Sra. PARCHMENT Chyristabel	Docente

CURN

Sra. AMAYA Martha Julia	Jefe del Departamento de Enfermería
Sra. BALODANO Melba	Coordinadora
Sra. LOPEZ Marta Elizabeth	Docente
Sra. SUAZO Emelda Ruth	Docente
Sra. ANDRADE Nidia	Docente
Sra. ESCOBAR Silvia	Docente
Sra. URRUTIA Norma Lastenia	Docente
Sra. HIDALGO Tessa	Docente
Sra. MENDOZA Eda Nohemi	Docente

M. J.



Sra. SANDERS Marta	Docente
Sra. VILLALOBOS Rita Maria	Docente
Sra. VENTURA Zoila Ruth	Docente
Sra. POHL Erlinda	Docente
Sra. RODRIGUEZ Gladys	Docente

CURLA

Sra. CASTAÑEDA Ivette	Jefe del Departamento de Enfermería
Sra. RAMIREZ Dulce Maria	Docente
Sra. FIALLOS Noemi	Docente
Sra. BANEGAS Reyna Isabel	Docente
Sra. LOPEZ Elia Ondina	Docente
Sra. ACOSTA Idalmy	Docente
Sra. ESCOBAR Maria Teresa	Docente
Sra. MONTOYA Rosa Linda	Docente
Sra. RIVERA Jean O'Dell	Docente
Sra. TORRES Gladys Esperanza	Docente
Sra. RAMIREZ Odila	Docente
Sra. VILLAFRANCA Mirtha	Docente
Sra. HAYES Maria Teresa	Docente



ANEXO #2

Lista de Expertos Japoneses enviados por JICA

Expertos de largo plazo

NOMBRE	CAMPO	DURACION
Sra. Sugawara Yoshiko	Jefa	90.10.01 - 95.08.31
Sr. Kuzasa Itsuo	Coordinador	90.09.17 - 95.08.31
Sra. Oshima Masako	Curriculum	90.10.01 - 92.09.31
Sra. Mori Yoshie	Curriculum	92.08.03 - 94.08.02
Sra. Ogawa Masako	Curriculum	94.08.14 - 95.08.31
Sra. Asakura Masako	Cirurgia	90.11.29 - 91.11.28
Sra. Murakami Yumiko	Cirurgia	92.05.14 - 95.05.13
Sra. Oshima Eiko	Pediatrica	92.01.09 - 94.01.08
Sra. Hayashi Atsuko	General	92.04.23 - 94.04.22
Sra. Tomishima Yukiko	Obstetrica	93.05.17 - 94.05.16

Expertos de corto plazo

NOMBRE	CAMPO	DURACION
Sr. Ogawa Hozumi	Arquitecto	91.02.24 - 91.03.19 92.07.01 - 92.07.16
Sra. Ito Akiko	Teoria educacional	91.06.17 - 91.07.01
Sr. Matsuda Masami	Investigación en salud pública	91.11.11 - 91.12.13 92.11.11 - 92.12.14 93.12.02 - 93.12.21 94.12.03 - 94.12.18
Sra. Terada Mahiro	Evaluación educacional	92.02.12 - 92.03.13
Sr. Koto Yasuhiro	Materiales didácticos	92.08.02 - 92.08.23
Sra. Hino Takako	Nutrición	93.07.22 - 93.12.25
Sra. Ogawa Masako	Teoria educacional	93.05.24 - 93.07.29 93.09.30 - 93.10.27
Sra. Yamagishi Harue	Salud Pública	94.08.07 - 94.08.27
Sra. Miyata Katsuko	Salud Pública	94.08.07 - 94.08.27
Sra. Yano Masako	Administración en enfermería	94.08.28 - 94.09.10

M.Y



ANEXO #3

Lista de contrapartes Hondureños enviados a Japón

AÑO FISCAL DE JAPON	NOMBRE	CAMPO	DURACION
Año fiscal del Japón 1990	Sr. Valenzuela Renato	Administración en enfermería	91.03.25 - 91.04.14
Año fiscal del Japón 1991	Sra. Mejía Liliana	Planificación educacional	91.07.15 - 91.08.08
	Sra. Chang Miriam	Administración de la Escuela	91.07.15 - 91.12.14
	Sra. Berrios Rosa Marfa	Materno Infantil	92.01.27 - 92.06.28
Año fiscal del Japón 1992	Sra. Alcantara Idania	Materno Infantil	92.09.21 - 93.02.27
	Sra. Rivera Cecilia	Curriculum	92.09.21 - 93.06.27
	Sra. Castañeda Iveth	Salud Pública	92.09.21 - 93.02.27
	Sra. Valladares Rosario	Cirugía	92.09.21 - 93.06.27
Año fiscal del Japón 1993	Sra. Hidalgo Tessa	Cirugía	93.08.31 - 93.12.25
	Sra. Amador Lourdes	Salud Pública	93.08.31 - 93.12.25
	Sra. Bueso Sonia	Curriculum	93.08.31 - 93.11.06
Año fiscal del Japón 1994	Sra. Montoya Alfonsina	Curriculum	94.08.30 - 94.12.17
	Sra. Collart Alba Luz	Curriculum	94.08.30 - 94.12.17
	Sra. Martínez Rita	Investigación	94.08.30 - 94.12.01

M. J.

(Signature)

ANEXO #4

Principales Equipos Donados a la República de Honduras

Año fiscal del Japón 1990

Nombre del Equipo	Lugar de ubicación
1. Fotocopiadora (7)	a,b,c,d,e,f,g
2. Maniquí (15)	a,b,c,d,e,f
3. Simulador de inyección intravenosa (12)	a,b,c,d,e,f
4. Vehículo (6)	a,b,c,g
5. Simulador de capacitación de enema (12)	a,b,c,d,e,f
6. Retroproyector (8)	a,b,c,d,e,f,g
7. Cámara (8)	a,b,c,d,e,f,g
8. Televisor a color (7)	a,b,c,d,e,f,g
9. Cama (15)	a,b,c,d,e,f,g
10. Proyector de diapositiva (8)	a,b,c,d,e,f,g

Año fiscal del Japón 1991

1. Computadora (7)	a,b,c,d,e,f,g
2. Maniquí (15)	a,b,c,d,e,f
3. Maniquí de resucitación (7)	a,b,c,d,e,f,g
4. Maniquí de bebe de resucitación (7)	a,b,c,d,e,f,g
5. Modelo de bebe de signos vitales (12)	a,b,c,d,e,f
6. Video cámara (6)	a,b,c,d,e,f
7. Fax (5)	b,c,d,e,f,g
8. Modelo de esqueleto (6)	a,b,c,d,e,f
9. Simulador de parto con motor (6)	a,b,c,d,e,f
10. Reproductor de video (6)	a,b,c,d,e,f

Año fiscal del Japón 1992

1. Equipo de atención de cuidado intensivo	g
2. Cama de parto	a,b,d,e,f
3. Microscopio (9)	d,e,f
4. Cámara de microscopio (6)	d,e,f
5. Camilla (10)	a,b,c,d,e,f,g,h,i,j
6. Silla de Rueda (30)	a,b,c,d,e,f,h,i,j
7. Equipo de succión (10)	a,b,c,d,e,f,g,h,i,j
8. Equipo de suministro de oxígeno (30)	a,b,c,d,e,f,h,i,j
9. Nebulizador (12)	a,b,c,d,e,f,g,h,i,j
10. Modelo de bebe de signos vitales (6)	a,b,c,d,e,f

M. J.

[Signature]

Año fiscal del Japón 1993

1. Incubador (1)	g
2. Impresora (1)	g
3. Unidad de planificación familiar (20)	a,b,c,d,e,f
4. Modelo de tacto vaginal (22)	a,b,c,d,e,f
5. Modelo de auxiliar el parto (26)	a,b,c,d,e,f
6. Detector de latido de corazón de feto (7)	a,b,c,d,e,f,g
7. Balanza de placenta (7)	a,b,c,d,e,f,g
8. Muñeca para educación sexual (13)	a,b,c,d,e,f,g
9. Balanza para recién nacido (1)	g
10. Modelo de pelvis (7)	a,b,c,d,e,f,g

Año fiscal del Japón 1994

1. Electrocardiograma (9)	a,d,e,f
2. Camilla (15)	h,i,j
3. Silla de rueda (30)	h,i,j
4. Fotocopiadora (7)	a,b,c,d,e,f,g
5. Modelo de tacto vaginal (33)	a,b,c,d,e,f
6. Parlante (7)	a,b,c,d,e,f,g
7. Microscopio (20)	a,b,c,d
8. Computadora (6)	d,e,f,g
9. Nebulizador (30)	h,i,j
10. Ambú (60)	h,i,j

Simbología

- a: CENARH
- b: CERARH NORTE
- c: CERARH SUR
- d: UNAH
- e: CURN
- f: CURLA
- g: Centro del Proyecto
- h: Hospital Escuela
- i: Hospital San Felipe
- j: Hospital Tórax

M.Y

ANEXO - 5

Presupuesto Nacional por el Proyecto

A. PARTE DEL MINISTERIO DE SALUD PUBLICA

(Unidad: Lempiras)

CENTRO	1991	1992	1993	1994	1995	TOTAL
CENARH	40,000	40,500	12,000	12,000	12,000	116,500
CERARH NORTE	30,000	30,000	8,000	8,000	8,000	84,000
CERARH SUR	30,000	30,000	8,000	8,000	8,000	84,000
Presupuesto de Contraparte	-	-	557,880	557,880	557,880	1,673,640
Total	100,000	100,500	569,880	569,880	569,880	1,910,140

* El presupuesto de contraparte se asigna para las actividades del Proyecto por el Ministerio de Salud Pública.

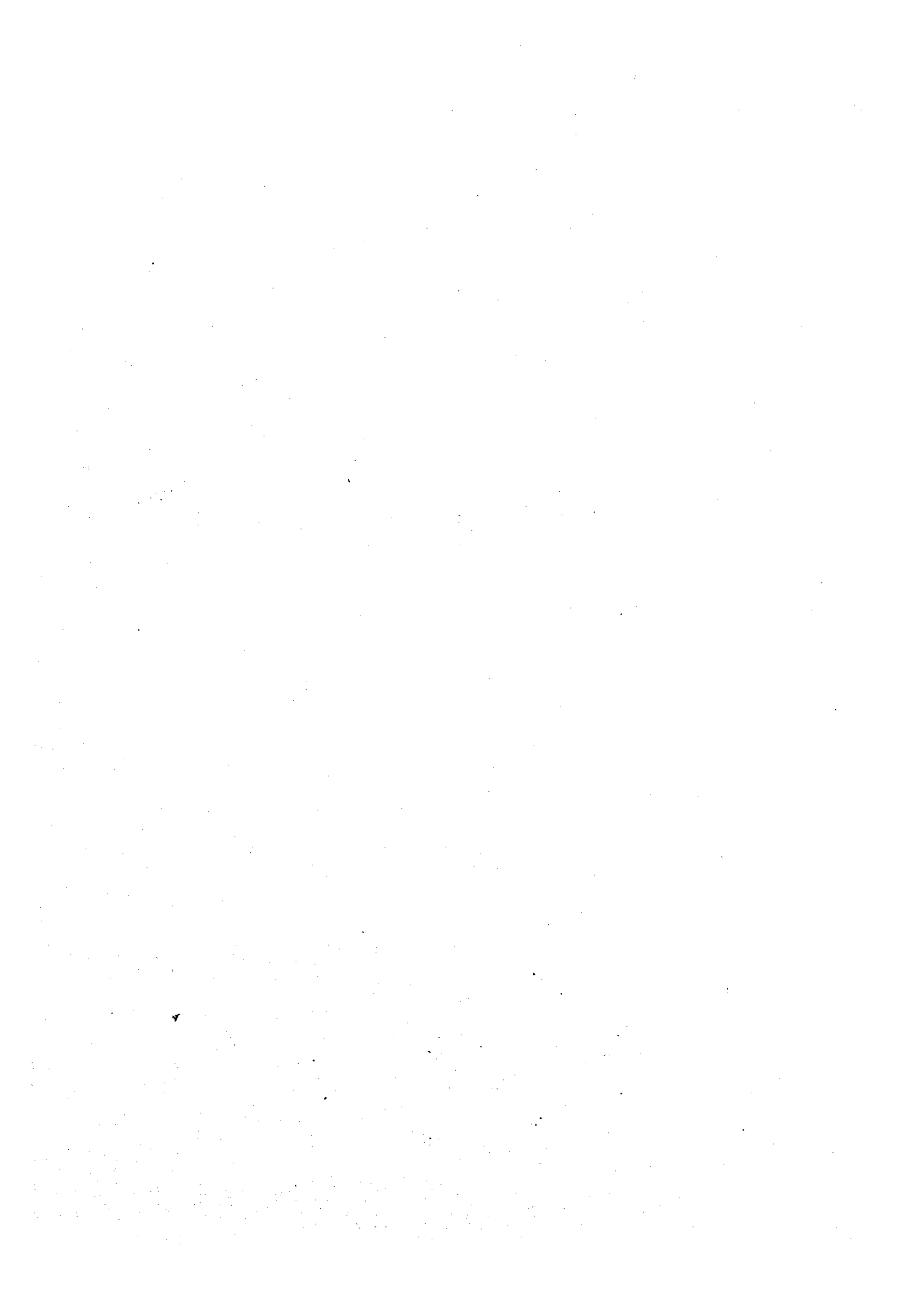
B. PARTE DE LA UNIVERSIDAD NACIONAL AUTONOMA DE HONDURAS

(Unidad: Lempiras)

CENTRO	1991	1992	1993	1994	1995	TOTAL
C.U. Tegucigalpa	17,000	25,000	35,400	42,200	50,000	169,600
CURN San Pedro Sula	6,000	8,800	10,300	12,882	15,800	53,782
CURLA La Ceiba	75,371	79,249	81,782	96,782	106,782	439,966
Total	92,971	113,082	127,482	151,864	171,782	663,340

M. J.





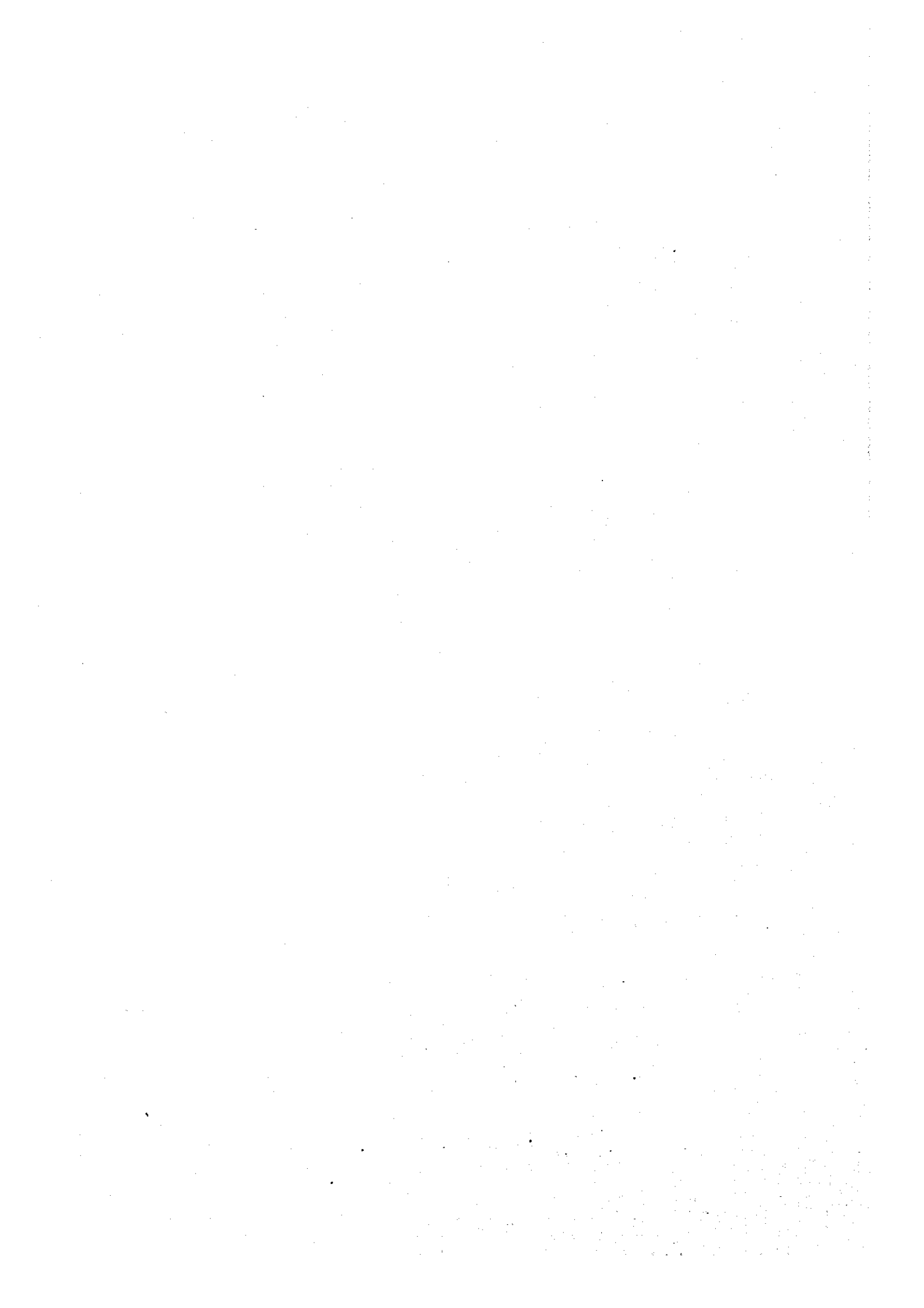
2 プロジェクトの具体的目標および達成度

<看護補助員養成校>

項 目	目 標	達成度 (1994年 3月)	残された課題 (1994年 3月)	達成度 (1995年 3月)
1. 看護教育理論、方法の改善	A. 教授計画、評価技術の向上 B. 効果的な学習のための教育技術向上	<ul style="list-style-type: none"> 一部の教員による授業計画立案が可能になった。 実施された教育の評価が改善された。 臨床実習(病院、保健所、コミュニティ)方法の概念の明確化 教材の特性および使用方法を理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新任教員が伝達講習を通して授業計画を立案できるようになる。 実習の計画・実施・評価の明確化 実習指導要項を完成する(母性看護、外科看護、管理実習)。 教材を使用して授業計画を立案・実施できるようになる。 	
2. カリキュラムの改善	・現行カリキュラムの改善に対するアドバイスを行う。	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム編成時に、概念枠組みのアイデアを与えた。 年間計画の重要性を明示した。 	・プロジェクト終了時に、カリキュラムの改善案を提示する。	→1996年検討の予定
3. 社会奉仕の改善	なし	<p>(波及効果)</p> <p>この活動は大学を対象に行っているが、</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会奉仕の教育的認識が高まった。 現場臨床科の社会奉仕中の教育内容の改善がみられた。 	なし	
4. 看護教育技術の改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画の作成 授業に関する教育評価の実施 学内実習の実施 教材作成の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画作成 50% 授業に関する教育評価の実施 50% 集中学内実習の実施 50% 母性分野の学内実習の実施 0% 専門家の援助を得ながら教材を作成できるようになった(第1段階)。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画作成 100% 授業に関する教育評価の実施 100% 集中学内実習の実施 100% 母性分野の学内実習の実施 100% 教材を自主作成し、教材を選択しながら適切な授業を実施できるようになる(第3段階)。 	
5. 教科書作成技術の向上	・母子、成人、基礎看護の教科書を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 作成途中である。 サブテキストを作成した。 「小児の成長と発達」「小児の抑制」「正常分娩」「教員用指導マニュアル」 セミナー講演集を作成した(計7冊)。 	<ul style="list-style-type: none"> 母子基礎看護については印刷製本をもって100%とする。 成人看護は原案作成をもって100%とする。 必要に応じ作成する。 例えば「滅菌操作」「呼吸管理」「基礎看護技術」「創処置」等 セミナー開催ごとに作成する(予定4冊)。 	→達成予定

<自治大学>

項 目	目 標	達成度 (1994年3月)	残された課題 (1994年3月)	達成度 (1995年3月)
1. 看護教育理論、方法の改善	A. 教授計画、評価技術の向上 B. 効果的な学習のための教育技術向上	<ul style="list-style-type: none"> 一部の教員による授業計画立案が可能になった。 実施された教育の評価が改善された。 臨地実習(病院、保健所、コミュニティ)方法の概念の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 新任教員が伝達講習を通して授業計画を立案できるようになる。 実習の計画・実施・評価の明確化 教材を使用して授業計画を立案・実施できるようになる。 	
2. カリキュラムの改善	・現行カリキュラムの改善に対するアドバイスを行う。	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム編成時に、概念枠組みのアイデアを与えた。 年間計画の重要性を明示した。 	・プロジェクト終了時に、カリキュラム改善案提示	→時期尚早のためとりやめ(延期)
3. 社会奉仕の改善	・教員・現場・学生が社会奉仕の教育的位置づけを認識し、よりよい教育が行われるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 実態の把握 規約・組織の整備 80% 指導者の連携と協力体制の改善 70% 指導・教育内容の改善 60% 	<ul style="list-style-type: none"> 規約等を完成させ印刷する。 協力体制の不十分な地域を強化する(110、第2、4保健地域)。 引き続き教員・現場・学生の三者集会を行う。 保健の他の職種と経験の交換をする。 カリキュラムのなかに社会奉仕の内容を加える。 「研究報告書のガイドブック」を作成する。 「社会奉仕手引書」を改善し印刷する。 社会奉仕の評価方法の検討・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> →1995年版は印刷・完成・配布済み →終了(3月末) →完了
4. 看護教育技術の改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画の作成 授業に関する教育評価の実施 学内実習の実施 教材作成の実施 看護研究グループの核の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画作成 80% 授業に関する教育評価の実施 80% 学内実習の充実 20% 専門家の援助を得ながら教材を作成できるようになった(第1段階)。 3回のセミナーを通して核が形成されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画作成 100% 授業に関する教育評価の実施 100% 学内実習の充実(特に母性) 100% 教材を自主作成し、教材を選択しながら適切な授業を実施できるようになる(第3段階)。 4~5名で研究を計画・実施し、報告書にまとめられるようになる。 	→OHP教材の使用はテグシガルバの大学において活発 北部の教員の興味、関心は強く、3月下旬に講習会開催
5. 教科書作成技術の向上	なし	<ul style="list-style-type: none"> セミナー講演集を作成した(計7冊)。 	<ul style="list-style-type: none"> なし セミナー開催ごとに作成する(予定4冊)。 	→精神科看護の教科書作成の要望(検討中)



3 インプット実績

(1) 専門家派遣実績

氏名	専門	派遣期間
(長期)		
菅原 能子	リーダー	90.10.01-95.08.31
九笹 逸郎	業務調整	90.09.17-95.08.31
大嶋 正子	加キヨム	90.10.01-92.09.31
森 淑江	加キヨム	92.09.03-94.08.02
小川 正子	加キヨム	94.08.14-95.08.31
朝倉 正子	外科看護	90.11.29-91.11.28
村上 友美子	外科看護	92.05.14-95.05.13
大島 英子	小児看護	92.01.09-94.01.08
林 淳子	成人看護	92.04.23-94.04.22
冨島 山紀子	母性看護	93.05.17-95.05.16
(短期)		
小川 穂積	建築	91.02.24-91.03.19 92.07.01-92.07.16
伊藤 暁子	原論	91.06.17-91.07.01
松田 正己	保健調査	91.11.11-91.12.13 92.11.11-92.12.14 93.12.02-93.12.21 94.12.03-94.12.18
寺田 眞広	加キヨム	92.02.12-92.03.13
古藤 泰弘	教材開発	92.08.02-92.08.23
日野 多佳子	栄養調査	93.07.22-93.12.25
小川 正子	教育理論	93.05.24-93.07.29 93.09.30-93.10.27
山岸 春江	公衆衛生	94.08.07-94.08.27
宮田 克子	公衆衛生	94.08.07-94.08.27
矢野 正子	看護行政	94.08.28-94.09.10

(2) 専門家派遣一覽表

専門家派遣一覽表

年度	1990年 (H. 2年)	1991年 (H. 3年)	1992年 (H. 4年)	1993年 (H. 5年)	1994年 (H. 6年)	1995年	
科目	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8	
長	10/1 _____ 香原 裕子 (0-9-1)	_____	_____	_____	_____	_____	
専	9/17 _____ 九能 達郎 (業務調整)	_____	_____	_____	_____	_____	
門	10/1 _____ 大嶋 正子 (加給増給)	_____ 9/30 大嶋 正子 (加給増給)	8/3 _____ 森 敏江 (加給増給)	_____ 小川 正子 8/14 (加給増給)	_____ 8/2 (加給増給)	_____	
家	11/29 _____ 朝倉 正子 (外科看護) — 11/28 5/14	_____	_____ 村上 友美子 (外科看護)	_____	_____	_____	
派	_____ 1/9 _____ 大島 英子 (小児看護)	_____	_____ 林 裕子 (成人看護)	_____ 1/8	_____ 4/22	_____	
遣	_____ 4/23 _____ 富島 由紀子 (母性看護)	_____	5/17	_____	_____	_____	
短	小川 穂積 (建築) 2/24 — 3/19 伊藤 咲子 (教育原論) 6/17 — 7/1 松田 正己 (保健調整) 11/11 — 12/13 寺田 真広 (加給増給分析・評価) 2/12 — 3/13	小川 穂積 (建築) 7/1 — 7/16 古藤 泰弘 (教材開発) 8/2 — 8/23 松田 正己 (保健調整) 11/11 — 12/14	小川 正子 (加給増給分析・評価) 5/24 — 7/29 — 9/30-10/27 8/7 — 8/27 日野 多佳子 (栄養) 7/22 — 12/25 松田 正己 (保健調整) 12/2 — 12/21	小川 正子 (加給増給分析・評価) 5/24 — 7/29 — 9/30-10/27 8/7 — 8/27 日野 多佳子 (栄養) 7/22 — 12/25 松田 正己 (保健調整) 12/2 — 12/21	山岸・菅田 (公衆衛生) 8/7 — 8/27 矢野 正子 (保健行政) 8/28 — 9/10 松田 正己 (保健調整) 12/3 — 12/18	_____	_____
期	_____	_____	_____	_____	_____	_____	

(3) 研修員受入実績

年度	氏名	専門	派遣期間	人/月
90	レイト アレンス	公衆衛生行政	91.03.25-91.04.14	1人・月
91	リリア メー ミリアン ファン ロザ マリア ベー	看護教育計画 看護学校管理 母子看護	91.07.15-91.08.08 91.07.15-91.12.14 92.01.27-92.06.28	11人・月
92	イレーン アカンタ ヒリア フロレス イカ カスタニェダ ロザリア アシエレス	母子看護 加キヨム 公衆衛生 外科看護	92.09.21-93.02.27 92.09.21-93.06.27 92.09.21-93.02.27 92.09.21-93.06.27	28人・月
93	リイ イルゴ ルルダス アトール ソニア ブレイ	成人看護 公衆衛生 加キヨム	93.08.31-93.12.25 93.08.31-93.12.25 93.08.31-93.11.06	10人・月
94	アルフォンソ モンテ アルカリス ヨシキルト リカ マルティネス	加キヨム 加キヨム 看護研究	94.08.30-94.12.17 94.08.30-94.12.17 94.08.30-94.12.01	11人・月
95	(予定) ホセ マグイナ ジーン リハラ マルタ マリア ブレイル マリア ファン	公衆衛生行政 公衆衛生 加キヨム 看護学校管理	1カ月 5カ月 3カ月 2カ月	11人・月
合計	18人			72人・月

(4) ローカルコスト負担

① プロジェクト基盤整備事業

1992年度 2373万4000円

プロジェクトの拠点となるセンターをテグシガルバ看護補助員養成校に隣接する厚生省の敷地内に建設した。カウンターパートの実習およびデモンストラーションのほか、セミナー、会議が開催可能な約700㎡、2階建ての施設である。

② 応急対策費

1993年度 248万8000円

自治大学ラセイバ校看護学科実習室改善工事

1994年度 333万6000円

自治大学サンペドロスーラ校看護学科実習室補修工事

(5) 機材供与実績

年度	供与額 (USドル)	主な機材
1990	508,113.86	車両、マネキン、コピー機、印刷機
1991	504,236.51	車両、コンピューター、キックパッド、注射シミュレーションモデル
1992	643,103.75	I C U機器、ストレッチャー、ビデオ編集機
1993	460,270.78	内診モデル、分娩介助モデル、分娩台、車椅子
1994	510,175.43	心電計、コピー機、内診モデル、看護用品
1995	(予定) 100,000.00	基本的看護機器
計	2,725,900.33	

① 機材の使用および管理状況

前提として、当プロジェクトが開始される前には、看護学校にほとんど機材がなかった。あったとしても古い、破損して動かないなど、悪いコンディションであった。そのため、教員は教育機材を使用して授業を展開する考えを持ち合わせておらず、機材を供与してから使用までに時間がかかったことは否めない。しかし、徐々にではあるが機材を使用して効率のよい授業を進める考えが浸透してきている。

別添の機材の使用頻度について、学校によっては自己評価が高く非常によく使用しているように見受けられるが、専門家によると学校によってはそれぞれワンランク下がった使用状況とのことである。

機材管理はおおむね良好である。

小さい機材が多いにもかかわらず、盗難による紛失は合計3品のみである（自治大

学テグシガルバ校ビデオカメラ1台、マイクロフォンセット1台、自治大学サンベドロスーラ校ビデオカメラ1台)。両校とも盗難事件の後、再発防止のための管理システムの改善を行った。

管理上の問題点として、自治大学ラセイバ校では高温多湿のため機材にカビが生えているものがあった。日本側としては頻繁に機材の状況をチェックしメンテナンスのシステムを導入するよう指示したが、抜本的な改善策として風通しのよい機材棚の据え付けも考えている。

今後の有効利用を促進するためには、各校の教材管理担当者が同僚の教員を対象に機材の使用講習会を開くことを提言する。

② 有効機材一覧表

今後同様のプロジェクトを企画したときの参考のために、対象校が供与を受けて有効と思った機材を10種あげてもらい集計した。質問用紙に教育機材と書いたため、一般機材を記入しなかった学校、10種のはずが20種以上記入した学校があったため、得点の高いものから有効とはすぐには判断できないものの、十分参考になる資料と思われる。

a. 看護教育機材

順番	機材名	得点 (機材名をあげた学校数)
1	血圧計	5
	電動式分娩ファントム	5
3	骨格モデル	4
	静脈注射シミュレーター	4
5	家族計画セット	3
	筋肉注射シミュレーター	3
	聴診器	3
	マネキン	3
	分娩介助モデル	3
	バイタルサインベビーモデル	3
11	皮内注射シミュレーター	2
	レサシアンネ	2
	ネブライザー	2
14	筋肉モデル	1
	身長計	1
	体重計	1
	体温計	1
	分娩台	1
	縫合腕モデル	1
	レサシベビー	1

(プロジェクト側の感想)

- I 予想どおり、基本的な看護教材（血圧計、聴診器、マネキン、身長計、体重計等）の評価が高い。コミュニティーに入り込むことが国の方針になっているため、携帯用体重計（1994年度供与予定）も将来リストに入ると思われる。
- II 電動式分娩ファントームや注射用シミュレーターの高得点は使用講習会を頻りに行った結果ではないかと思われる。教材のアイデアはよいが、耐久性に難点があり将来同種のプロジェクトの供与教材としては薦められない。
- III 残りの期間で他の教材の使用講習会を企画実施する必要がある。
- IV 母性看護教材の供与が1993年度で、供与してからあまり時間がたっていないため、リストには少ししか出てこなかったが、今後専門家の活動を通して、内診モデル、分娩介助モデル、悪露模型、骨盤模型等がリストに入ると思われる。

b. 視聴覚および一般教材

順番	教材名	得点（教材名をあげた学校数）
1	OHP	6
	コピー機	6
3	車両	5
4	スライドプロジェクター	4
	謄写機	4
6	焼付け機	3
	コンピューター	3
	ビデオカメラ	3
	ビデオデッキ	3
10	カメラ	2
	タイプライター	2
	ファクシミリ	2
13	カラーテレビ	1
	マイクロフォンセット	1

(プロジェクト側の感想)

- ・概して看護教育教材よりも喜ばれている。
- ・リストに載ったすべての教材が必須教材と考えてよい。

(6) 供与機材一覧表

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CENARH

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
1	原簿機	2	2		X			1台は故障中
2	サイドテーブル	3	3			X		
3	写真機	1	1		X			
4	カラーテレビ	1	1		X			
5	ベッド	6	6		X			
6	コピーマシーン	1	1		X			
7	シンメルプリンジニ	1	1				X	学校で使用する機会がない。
8	スクリーン	3	3		X			
9	スライドプロジエクター	1	1		X			
10	タイプライター	1	1		X			
11	ビデオデッキ	2	2		X			
12	ビデオカメラ	2	2		X			
13	分格介胸マネキン	4	4		X			
14	マイクアフォンセット	1	1		X			
15	マネキン, 大人	6	6		X			
16	マネキン, 小児	4	4		X			
17	ラジオカセットデッキ	1	1		X			
18	基本的な外科手術セット	5	5				X	
19	解剖注射シミュレーター	4	4				X	

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		供与数	現存量		しばしば	時々	なし	
20	血圧計	15	15		X			
21	静脈注射シミュレーター	3	3		X			
22	実物反時計投影機	1	1				X	ランプがすぐ切れ使用不可
23	黒板	1	1		X			
24	取床台	3	3		X			
25	焼付機	1	1		X			
26	体重計	1	1		X			
27	聴診器	10	3	7つは実習で使用	X			
28	教育用聴診器	5	4	1つは実習で使用	X			
29	專家視鏡シミュレーター	10	0	機材交換のため返品			X	返品につき
30	OHP	2	2		X			
31	カスト	4	4				X	学校で実習に使う機会がない
32	コンピュータ	1	1		X			
33	ストレッチャー	1	1		X			
34	ネプライザー	1	1		X			
35	バイタルサインベンビーモデル	2	2		X			
36	胸腔ドレナージセット	1	1		X			
37	レシアンホ	1	1		X			
38	小児レサシ	1	1		X			

NO	機材名	数量		効果が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存量		しばしば	時々	なし	
39	吸引器	1	1				X	病院実習で直接教えるため
40	酸素吸入器	1	1				X	病院実習で直接教えるため
41	小児ベッド	2	2			X		
42	身長計	2	2			X		
43	骨格モデル	1	1		X			
44	低圧持続吸引器	1	1				X	病院実習で直接教えるため
45	電動式分装フロントーム	1	1				X	故障中
46	新生児ベッド	2	2			X		
47	皮下注射シミュレーター	7	7				X	10カ月の教育課程ではこの技術を教えることは時間的に不可能であるため
48	縫合モデル	5	5				X	
49	ニードルペン	2	2				X	
50	ドップラー胎児心拍検出器	1	1			X		
51	ヒース胎芽発育観察器	1	1			X		
52	ベビー受け台	1	1				X	別の方法を使用するため
53	ベビー身長計	1	1			X		
54	悪露観型	1	1			X		
55	家族計画セット	3	3			X		
56	骨盤検査観型	1	1			X		

供与機材一覧表

CENARR

31 OCT. 94

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	残存数		しばしば	時々	なし	
57	見取付き透明婦人骨盤	1	1			X		
58	処置ライト	1	1			X		
59	性教育人形	2	2			X		
60	胎盤計測器	1	1				X	今後使用する予定
61	点滴台	3	3			X		
62	内診モデル	2	2				X	今後使用する予定
63	妊娠腹部触診モデル人形	1	1				X	今後使用する予定
64	分娩介助モデル	4	4				X	今後使用する予定

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		保有数	現存数		しばしば	時々	なし	
1	写真機	2	2		X			現在故障中
2	サイドテーブル	3	3		X			
3	写真機	1	1		X			
4	カラーテレビ	1	1		X			
5	ベッド	6	6		X			
6	コピーマシーン	1	1		X			
7	シンメルブッシュ	1	1				X	使用する機会がない。
8	スクリーン	3	3		X			
9	スライドプロジェクター	2	2		X			
10	タイプライター	1	1		X			
11	ビデオデッキ	2	2		X			
12	ビデオカメラ	2	2		X			
13	分岐介助マネキン	4	4		X			
14	マイクロフォンセット	1	1		X			現在故障中
15	マネキン, 大人	6	6		X			
16	マネキン, 小児	4	4		X			
17	ラジオカセットデッキ	1	1			X		現在故障中
18	基本的な外線手探セット	5	5		X			
19	薪内照射シヨミエレーター	4	4		X			

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	残存数		しばしば	時々	なし	
20	血圧計	15	15		X			
21	静脈注射シミュレーター	3	3		X			
22	実物反射球投影機	1	1				X	電球がすぐに切れるため
23	草画	1	1		X			
24	頭床台	3	3		X			
25	染付け機	1	1			X		
26	体重計	1	1		X			
27	顕微鏡	10	10		X			
28	教育用顕微鏡	5	2	3つは実習で使用	X			
29	導尿管挿入シミュレーター	10	0	機材交換のため返品			X	返品につき
30	OHP	2	2		X			
31	キャスト	4	4				X	実習の場がなく、使用せず
32	コンピュータ	1	1			X		プリンターは修理の必要あり
33	ストレッツチャー	1	1		X			
34	ネブライザー	1	1		X			
35	バイタルサインベンチモデル	2	2		X			
36	フアクシミリ	1	1		X			コピー部分の修理が必要
37	レサシアンホ	1	1			X		
38	小児レサシ	1	1			X		

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CERARI-NORTE

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
39	吸引器	1	1		X			
40	酸素吸入器	1	1		X			
41	小児ベッド	2	2			X		
42	身長計	2	2		X			
43	骨格モデル	1	1			X		
44	低圧持続吸引器	1	1		X			
45	電動式分枝フロントーム	1	1		X			
46	新生児ベッド	2	2		X			
47	皮内注射シミュレーター	9	9		X			
48	縫合モデル	5	5		X			
49	コーガンベンダー	2	2			X		
50	ドップラー胎児心拍検出器	1	1			X		
51	ヒース胎芽発育順序模型	1	1			X		
52	ベビー受け台	1	1		X			
53	ベビー身量計	1	1			X		
54	悪露模型	1	1			X		
55	家族計画セット	3	3			X		
56	骨盤経線模型	1	1			X		

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
57	見取付き透明婦人骨盤	1	1		X			
58	処置ライト	1	1			X		
59	性教育人形	2	2		X			
60	胎盤計測器	1	1		X			
61	点滴台	3	3		X			
62	内診モデル	2	2		X			
63	妊娠腹部触診モデル人形	1	1		X			
64	分娩介助モデル	4	4		X			
65	分娩台	1	1		X			

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CERAPH-SUR

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
1	複写機	2	2		X			
2	サイドテーブル	3	3			X		
3	写真機	1	1			X		
4	カラーテレビ	1	1			X		
5	ベッド	6	6			X		
6	エビーマシン	1	1		X			
7	シンメルプンシ	1	1				X	使用方法が解らない。
8	スクリーン	3	3			X		
9	スライドプロジェクター	2	2			X		
10	タイプライター	1	1		X			
11	ビデオデッキ	2	2			X		
12	ビデオカメラ	2	1	1台は現在修理中のため		X		
13	分鏡介助マネキン	4	4			X		
14	マイクロフォンセット	1	1			X		
15	マネキン、大人	6	6			X		
16	マネキン、小児	4	4			X		
17	ラジオカセットデッキ	1	1			X		
18	基本的外科手術セット	5	5			X		
19	顕微鏡シヨミエレーター	4	4			X		

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
20	血圧計	40	40		X			
21	音脈送器シミュレーター	3	3			X		
22	実物反折投影機	1	1			X		
23	車両	1	1		X			
24	頭床台	3	3			X		
25	床付け機	1	1		X			使用頻度は高いが、現在故障中。
26	体重計	1	1		X			
27	聴診器	10	10			X		
28	教育用聴診器	5	5			X		
29	導風送器シミュレーター	10	10			X		
30	OHP	2	2			X		
31	カスト	4	4			X		
32	フアクシミリ	1	1		X			
33	ストレッツチャー	1	1			X		
34	ネブライザー	1	1			X		
35	バイタルサインベンチモデル	2	1	一台は現在修理中		X		
36	胸腔ドレナージセット	1	1				X	使用方法が解らない。
37	レナシアンホ	1	1				X	使用方法が解らない。
38	小児レナシ	1	1				X	使用方法が解らない。

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況		使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	
39	吸引器	1	1		X		
40	酸素吸入器	1	1		X		
41	小児ベッド	2	2		X		
42	身長計	2	2		X		
43	骨格モデル	1	1		X		
44	応圧持続吸引器	1	1			X	使用方法が解らない。
45	電動式分娩フロントーム	1	1		X		
46	新生児ベッド	2	2		X		
47	皮下注射シミュレーター	9	9		X		
48	組合モデル	5	5		X		
49	コーケンベビー	2	2		X		
50	ドップラー胎児心拍数出器	1	1		X		
51	ヒース胎芽発育順序模型	1	1		X		
52	点滴台	3	3		X		
53	ベビー身長計	1	1		X		
54	聴覚模型	1	1		X		
55	家族計画セット	3	3		X		
56	内診モデル	2	2		X		
57	分娩介助モデル	2	2		X		

UNAB

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
1	輪転機	1	1		X			
2	サイドテーブル	2	2			X		
3	写真機	1	1			X		
4	カラータレド	1	1			X		
5	ベッド	6	6		X			
6	コピーマシーン	1	1		X			
7	シンメルブッシュ	1	0	修理中のため			X	修理中につき
8	スクリーン	3	3			X		
9	スライドプロジェクター	2	2		X			
10	タイプライター	1	1		X			
11	ビデオデッキ	2	2			X		
12	ビデオカメラ	2	1	1台盗難に合う		X		
13	教員研修セット	3	3			X		
14	マイクロフォンセット	1	0	盗難に合う			X	盗難にあい機材がないため
15	マネキン、大人	6	6			X		
16	マネキン、小児	4	4			X		
17	ラジオカセットデッキ	1	1			X		
18	基本的な外科手技セット	5	5			X		
19	縮小用紙シミュレーター	4	4			X		

供与機材一覧表

31 OCT. 94

UNAH

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
20	血圧計	15	15	但し5台は故障中	X			
21	聴脈注射シミュレーター	6	6			X		
22	実物反射型投影机	1	1				X	
23	車両	1	1		X			
24	病床台	2	2		X			
25	床付け機	1	1			X		
26	体重計	1	1			X		
27	聴診器	10	10			X		
28	教育用図形器	5	5		X			
29	聴脈注射シミュレーター	10	0	機材交換のため返品			X	
30	OHP	6	6		X			
31	カスト	4	4			X		
32	コンピュータ	1	1		X			
33	ストレッチャー	1	1		X			
34	ネブライザー	1	1			X		
35	バイタルサインベンチモデル	4	4			X		
36	レサシアンネ	1	1			X		
37	小児レサシ	1	1			X		

供学機材一覧表

31 OCT. 94

UNAB

No	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		供学数	現存数		しばしば	時々	なし	
38	吸引器	1	1		X			
39	酸素吸入器	1	1		X			
40	小児ベッド	2	2		X			
41	身長計	2	2		X			
42	骨格モデル	1	1		X			
43	低圧持続吸引器	1	1		X			
44	電動式アアントム	1	1		X			
45	新生児ベッド	2	2		X			
46	室内送風シミュレーター	7	7		X			
47	磁合モデル	5	5		X			
48	分級台	1	1		X			
49	コーナンベビー	2	2		X			
50	トンプラー胎児心拍検出器	1	1		X			
51	ヒス胎芽発育順序模型	1	1		X			
52	ベビー受け台	1	1		X			
53	新生児身長計	1	1		X			
54	悪露模型	1	1		X			
55	家族計画セット	3	3		X			
56	骨格模型模型	1	1		X			

供与機材一覧表

31 OCT. 94

UNAR

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
57	見取付き透明婦人骨盤	1	1			X		
58	処置用ライト	1	1			X		
59	性教育人形	2	2			X		
60	胎盤用秤	1	1			X		
61	点滴スタンド	3	3			X		
62	内診モデル	6	6			X		
63	妊婦腹部触診モデル人形	3	3			X		
64	分娩介助モデル	4	4			X		
65	筋肉モデル	1	1			X		
66	頸椎模	2	3			X		
67	頸椎模カメラ	2	2			X		
68	児頭模回モデル	1	1			X		
69	児頭計測器	2	2			X		
70	乳房マンサージモデル	1	1			X		

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CURS

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
1	顕微鏡	1	1			X		
2	サイドテーブル	2	2		X			
3	写真機	1	1				X	フラッシュが故障中
4	カラーテレビ	1	1			X		
5	ベッド	6	6			X		
6	コピーマシーン	1	1		X			
7	シンメラルブッシニ	1	1			X		
8	スクリーン	3	3			X		
9	スライドプロジェクター	2	2			X		
10	タイプライター	1	1				X	故障中につき
11	ビデオデッキ	2	2			X		
12	ビデオカメラ	2	1	1台盗難に合う		X		
13	救急蘇生セット	3	3			X		
14	マイクロナンセット	1	1			X		
15	マネキン, 大人	6	6			X		
16	マネキン, 小児	4	4			X		
17	ラジオカセットデッキ	1	1			X		
18	基本的な外科手術セット	5	5			X		
19	筋内注射シミュレーター	4	4			X		

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CURRY

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		供与数	残存数		しばしば	時々	なし	
20	血圧計	15	15		X			
21	静脈注射シミュレーター	6	6		X			
22	実物反射投影機	1	1		X			
23	車高	1	1			X		
24	取床台	2	2		X			
25	売付け機	1	1		X			
26	本量計	1	1			X		
27	聴診器	10	10		X			
28	教育用聴診器	5	5		X			
29	導尿装置シミュレーター	10	0	機材交換のため返品			X	返品につき
30	OHP	6	6		X			
31	カスト	4	4		X			
32	コンピュータ	1	1			X		
33	ストレッチャ	1	1		X			
34	ネプライザー	1	1		X			
35	バイタルサインペンモデル	4	3	1台修理中	X			
36	フアクシミリ	1	1				X	電話線が不通のため
37	レサシアンネ	1	1		X			
38	小児レサシ	1	1		X			

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CURS

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		供与数	残存数		しばしば	時々	なし	
39	吸引器	1	1			X		
40	酸素吸入器	1	1			X		
41	小児ベッド	2	2			X		
42	身置社	2	2			X		
43	骨格モデル	1	1		X			
44	低圧持続吸引器	1	1			X		
45	電動式フロントーム	1	1			X		
46	新生児ベッド	2	2			X		
47	皮内注射シミュレーター	7	7			X		
48	複合モデル	5	5			X		
49	分枝台	1	1			X		
50	コーケンベビー	2	2			X		
51	ドップラー胎児心拍検出器	1	1			X		
52	トースト胎芽発育順序模型	1	1			X		
53	ベビー受け台	1	1			X		
54	新生児身置社	1	1			X		
55	母乳模型	1	1			X		
56	家族計画セット	3	3			X		
57	骨盤経線模型	1	1			X		

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CURN

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
58	男頭付き透明婦人骨盤	1	1			X		
59	処置用ライト	1	1			X		
60	性教育人形	2	2			X		
61	胎盤用秤	1	1			X		
62	点滴スタンド	3	3			X		
63	内診モデル	6	6			X		
64	妊婦腹部触診モデル人形	3	2	1台は修理中		X		
65	分娩介助モデル	4	4			X		
66	筋肉モデル	1	1		X			
67	頸條線	3	3				X	未だ組み立てていないため
68	頸條線カメラ	2	2				X	未だ組み立てていないため
69	児頭頭回モデル	1	1			X		
70	児頭計測器	2	2			X		
71	乳房マンサージモデル	1	1			X		

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供与数	現存数		しばしば	時々	なし	
1	輪転機	1	1		X			
2	サイドテーブル	2	2		X			
3	写真機	1	1		X			
4	カラーテレビ	1	1		X			
5	ベッド	6	6		X			
6	コピーマシーン	1	1		X			
7	シンメルプッシュ	1	1			X		
8	スクリーン	3	3		X			
9	スライドプロジェクター	2	2		X			
10	タイプライター	1	1		X			
11	ビデオデッキ	2	2		X			
12	ビデオカメラ	2	2		X			
13	視覚衛生セット	3	3			X		
14	マイクログラフセット	1	1		X			
15	マネキン, 大人	6	6		X			
16	マネキン, 小児	4	4		X			
17	ラジオカセットデッキ	1	1		X			
18	基本的な外科手術セット	5	5		X			
19	解剖用シミュレーター	4	4			X		

供手機材一覧表

31 OCT. 94

CURLA

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用状況			使用しない場合はその理由
		供手数	現存数		しばしば	時々	なし	
20	血圧計	15	15		X			
21	静脈注射シミュレーター	6	6		X			
22	実物反射投影機	1	0	使用不可能なため廃棄処分とする			X	処分したため存在しない
23	空筒	1	1		X			
24	頭床台	2	2		X			
25	焼付け機	1	1		X			
26	体重計	1	1			X		
27	聴診器	10	10		X			
28	教育用聴診器	5	5		X			
29	静脈造影シミュレーター	10	0	機材交換のため返品			X	返品中
30	OHP	2	2		X			
31	カスト	4	4			X		
32	コンピュータ	1	1		X			
33	ストレッチャー	1	1			X		
34	ネプライザー	1	1			X		
35	バイタルサインベンチモデル	4	3	1台修理中	X			
36	フアクシミリ	1	1				X	電線線が不通のため
37	レザシアンネ	1	1			X		
38	小児レザシ	1	1			X		

供与機材一覧表

31 OCT. 94

CURLA

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度		使用しない場合はその理由
		供与数	現存量		しばしば	時々 なし	
39	吸引器	1	1		X		
40	酸素吸入器	1	1		X		
41	小児ベッド	2	2		X		
42	身長計	2	2		X		
43	骨格モデル	1	1		X		
44	低圧持続吸引器	1	1		X		
45	電動式アアントーム	1	1		X		
46	新生児ベッド	2	2		X		
47	院内注射シミュレーター	7	7		X		
48	縫合モデル	5	5		X		
49	分枝台	1	1		X		
50	ローケンベンビー	2	2		X		
51	トンプラー胎児心拍検出器	1	1		X		
52	ヒパ胎芽発育順序表型	1	1		X		
53	ベビー受け台	1	1		X		
54	新生児身長計	1	1		X		
55	悪露模型	1	1		X		
56	家族計画セット	3	3		X		
57	骨盤経線模型	1	1		X		

供手教材一覧表

31 Oct. 94

CURLA

NO	機材名	数量		数量が減少した理由	使用頻度			使用しない場合はその理由
		供手数	現存数		しばしば	時々	なし	
58	児頭付き透明婦人骨盤	1	1		X			
59	処置用ライト	1	1		X			
60	性教育人形	2	2		X			
61	胎盤用秤	1	1		X			
62	点滴スタンド	3	3		X			
63	内診モデル	6	6		X			
64	妊婦腹部触診モデル人形	3	3		X			
65	分娩介助モデル	4	4		X			
66	筋肉モデル	1	1		X			
67	環状鏡	3	3			X	組立未完了	
68	環状鏡カメラ	2	2			X	組立未完了	
69	児頭旋回モデル	1	1		X			
70	児頭計測器	2	2		X			
71	乳房マンサージモデル	1	1		X			

4 アウトプット実績

(1) 現地セミナー一覧表

研修コース名	目的	実施月	受講資格	参加者数	終了証書	実施場所	担当
平成3年度 看護教育原論セミナー	2000年に向けて求められる看護婦像と看護教育のあり方	6月	看護教師 臨床指導者	85	あり	コンピュータ 看護協会	伊藤
供与機材の使用 方法セミナー	パソコン類の使用方法を教える	7月	看護教師	12	なし	CENARH	大嶋, 朝倉
供与機材の使用 方法セミナー	視聴覚機材の使用方法的 エンゲージョン	7,8月	看護教師	12	なし	対象6校	大嶋, 朝倉
保健調査セミナー	地域における看護研究の 展開をテーマに理論と演習	11,12 月	看護教師 保健所看護婦	30	あり	CENARH, サウス・サウス サウス保健所	松田
看護研究調査指 導セミナー	看護研究調査を前に、フ ォット調査員に対して行っ たリエンゲージョン	12月	看護教師 病院看護婦	15	なし	CENARH	菅原
看護教育評価セ ミナー	看護教育評価の重要性と あり方	3月	看護教師 臨床指導者	50	なし	文部省教 員再教育 センター	寺田
平成4年度 コンピューター操作セ ミナー	コンピューターの初歩的パ ールの機能及び操作を習得する	4月	看護教師 看護学校秘 書	15	なし	サウス・サ ウス・サウス センター	菅原
教授計画セ ミナー	教授計画作成の理論と実 際	4月	看護教師	10	なし	CENARH-N	大嶋
社会奉仕期間に おける実習強化	アンケート調査結果を基に規 約及び評価方法を学校、 臨床側が同席して協議	7月	3自治大学 第6保健地 域指導看護婦	20	なし	北米商 工会議所	村上, 林
教材開発セ ミナー	OHP理論と作成技術	8月	看護教師 病院スーパー バイザー	35	あり	サウス・サ ウス・サウス センター	古藤
教授法セ ミナー	教授法についての一般理 論	9月	CURL教師	16	あり	サウス・サ ウス・サウス センター	大嶋
教材開発セ ミナー	OHPの理論と作成技術	9月	UNAH教師	21	あり	UNAH	村上, 林
保健調査セ ミナー	地域における看護研究の 展開をテーマに理論と演習	11月	看護教師 保健所職員	30	あり	CENARH, サウス・サ ウス・サウス 保健所	松田

研修コース名	目的	実施月	受講資格	参加者数	終了証書	実施場所	担当
教材作成コース	OHP教材作成技術	1月	CENARII教師	10	なし	CENARII	大島 森, 林
教材使用講習会	電動式アット-ムの使用方法	2-3月	CURLA教師 UNARII教師 CENARII教師 CURN教師	4 4 4 4	なし	プロジェクト センター	森, 大島
教材作成コース	OHP教材作成技術	2月	CERARII-S 教師	7	なし	CERARII-S	村上
機材使用講習会	ビデオの使用法	3月	CURLA教師	3	なし	CURLA	村上
小児看護技術コース	小児の保温	3月	CENARII教師	15	なし	プロジェクト センター	大島
平成5年度 小児看護講習会	小児の成長と発達について教師へ知識強化	5月	CERARII-S教師	7	なし	CERARII-S	大島
学内実習強化コース	学内実習展開のための計画と実際の演習	6月	CENARII教師	14	あり	CENARII	小川
カリキュラム講習会	カリキュラム評価	6月	CERARII-N教師	8	なし	CERARII-N	小川
カリキュラム講習会	教授案作成の実際	6月	看護補助員 校教師	38	あり	プロジェクト センター	小川
学内実習強化コース	学内実習指導の実際と臨床実習評価	10月	CENARII教師	12	なし	プロジェクト センター	全専門家
栄養調査講習会	栄養調査手法	11月	CENARII教師 病院看護婦 保健所職員	24	なし	ツミガール保健 所	日野
保健調査セミナー	地域及び病院における看護研究の展開の理論と演習, データ分析	12月	看護教師 保健所職員	30	あり	プロジェクト センター	松田
母子看護コース	家族計画の単元展開に用いる用具とその取扱	12月	看護教師	8	なし	プロジェクト センター	富島
ナトリウムイオン	臨床指導の実際	2月	看護補助員 校教師	43	なし	プロジェクト センター	富島, 森, 村上

研修コース名	目的	実施月	受講資格	参加者数	終了証書	実施場所	担当
平成6年度 母性看護セミナー	母性看護実習指導計画の 実際	5月	CERARH-N CURN教師, 臨床指導者	25	なし	コリス	富島
母性授業研究会	正常分娩について	5,7月	CURN教師, 臨床指導者 CERARH-N 教師	7	なし	CURN	富島
				8	なし	CERARH-N	
ビデオ教材作成 講習会	ビデオ教材を作成するた めの基礎を指導	6月	看護教師	8	なし	プロジェクト センター	村上
成人看護講習会	重症患者看護分野での指 導	7-9月	CURLA教師 臨床指導者	5	なし	CURLA 外洋行イ ンター 病院	村上
公衆衛生セミナー	日本の公衆衛生の発展段 階を紹介し、モデルが 取り入れられるものを捜 す	8月	看護教師 臨床指導者	35	あり	ホテルグ ラシア	山岸, 宮田
			看護教師 臨床指導者	36	なし	プロジェクト センター	
救急看護セミナー	救急患者看護における指 導技術の強化	9月	CURN教師	12	なし	CURN	村上
看護行政セミナー	将来に向けて看護職の発 展のためになすべき事を 求める	9月	看護教師 臨床指導者 国際機関ス ターアップ	156	あり	ホテル	矢野
母性看護セミナー	母性実習指導の実際	9月	CURLA教師 臨床指導者	10	なし	CURLA	富島
調査研究強化コ ース	調査実施のための知識・ 手法の強化	10月	CENARH教師 UNAH教師	45	なし	プロジェクト センター	菅原
母性看護授業研 究会	母性を対象に授業展開で 得た知識などを交換	11月	CURLA, CURN , CERARH-N 教師, 臨床 指導者	34	なし	ホテルグ ラシア	富島
保健調査セミナー	4年間続いた保健調査の 集大成、報告書作成及び 発表会	12月	看護教師 臨床指導者	6	あり	プロジェクト センター	松田
				49		ホテル マリイ	

(2) 印刷物一覧表

教科書

種 類	作成状況	印刷部数及び予定数
「国の現状」	完成	1,000
「食糧保障」	印刷前の最終チェック	1,000
「母性看護」	印刷前の最終チェック	1,000
「成人看護」	原稿40%	1,000
「社会参加」	原稿70%	1,000
「小児看護」	原稿作成開始	1,000
合 計	6種類	6,000

マニュアル類

種 類	作成状況	印刷部数及び予定数
「小児の成長と発達」	完成	300
「小児の抑制」	完成	300
「分娩カートの使用マニュアル」	完成	200
「正常分娩の看護」	完成	1,000
「救急蘇生時の看護」	完成	500
「基礎看護技術・パティシエ」	完成	200
「家庭分娩」	完成	1,000
「重症患者の看護」	原稿30%	500
「看護補助員用実習要項 -全課程-」	原稿100% 最終検討の段階	500
「基礎看護技術マニュアル」	95年2月から開始	1,000
合 計	10種類	5,500

講演収録

種 類	作成状況	印刷部数及び予定数
「看護教育カリキュラムの展開」	完成	200
「看護教育評価」	完成	100
「保健調査の概念と展開方法」	完成	100
「カリキュラムデザインと教授計画」	完成	100
「カリキュラムの一般概念」	完成	100
「統合カリキュラム展開上の教育計画の強化」	完成	100
「教材開発」	完成	100
「看護行政の今後の展望」	完成	1,000
「公衆衛生看護教育の展開」	3月下旬仕上がり予定	500
合 計	9種類	2,300

ガイドライン

種 類	作成状況	印刷部数及び予定数
「社会奉仕ノート：病院編」	完成	1,000
「社会奉仕ノート：保健所編」	完成	1,000
「社会奉仕規約」	完成	500
合 計	3種類	2,500

(3) 調査一覧表

調査結果まとめ

- 「ハナガシ」における保健調査
- マンエン保健所改善調査
- 大学通信教育看護コース改善調査
- 看護婦社会背景調査（作成中）
- 社会奉仕期間における学生の背景調査及び実施の現状調査

(4) 視聴覚教材一覧表

(スライド)

- 「筋肉注射手技」
- 「手袋装着」
- 「コレラ予防」
- 「身長体重測定」

(ビデオ)

- 「社会奉仕オリエンテーション」
- 「CENARIIカリキュラム展開についてのオリエンテーション」
- 「看護婦社会背景調査のオリエンテーション」
- 「滅菌手袋の装着」
- 「血圧測定」
- 「皮内注射」
- 「大学新カリキュラム紹介」
- 「無菌操作」
- 「保育器の使用方法」
- 「母性実習オリエンテーション」
- 「正常分娩介助」
- 「経口補液の作り方」
- 「エイズ患者の人権」

-
- 「小児の成長と発達：西語訳」
 - 「乳児の脳の発達と反射：西語訳」
 - 「住民の手で命を救った村（沢内村の保健活動の紹介）：西語訳」